no. 256
1985年 3/15
アミューズメント通信
MARCH 15, 1985
ゲームマシン
GAME MACHINE
Game Machine Magazine is published twice monthly on the 1st and 15th of the month by Amusement Press, Inc., 9-16 Kamiyamacho, Kita-ku, Osaka, 530 Japan. Subscription rate: Japan ¥7200; Overseas (air mail) - US$70.00 per year.

毎月２回（１日・15日）発行　昭和56年10月17日第３種郵便物認可　発行所　アミューズメント通信社　編集・発行人　赤木真澄　〒530大阪市北区神山町9-16（山名ビル）☎06(314)0309　定価300円　年間購読料7,200円（送料共）

G機化傾向強まる

新風営法施行日に開かれた第４回ＮＡＯショー

ＮＡＯショー開幕のテープカットを行なう（左から）内田ＮＡＯ会長、通産省サービス産業官付・玉木課長補佐、出展社代表・セガ社の駒井専務

日本アミューズメントオペレーター協会（内田博会長、ＮＡＯ）主催によるＮＡＯアミューズメントエキスポ85（第四回ＮＡＯショー）が二月十三日から二日間、東京・新宿のＮＳビルにて四十社（昨年五十四社）の出展により開催された。

ＮＡＯ事務局発表によると入場者数は初日四千人、二日目三千人の延べ七千人（昨年九千人）で、出展社数、入場社数ともに昨年を下回り、第二回目以降は減少傾向をたどってきている。同ショーは前回までメダルゲーム機などギャンブル（Ｇ）機を排除する方針で開かれてきたが、今回からそれらの出品も可能となり、部品類などを除く出品機種中約三分の一がメダルゲーム機など（十二社から出品）で占められた。新製品については乗物機が約十機種、ＴＶゲーム機が十五機種、その他アーケードゲーム機も約十五機種それぞれ発表された**（出展内容については８めん以下で詳報）**。

初日の開会式では内田ＮＡＯ会長、来賓として通産省産業政策局長代理の玉木昭久・サービス産業官付課長補佐、中村雅哉ＪＡＭＭＡ会長、ＪＡＰＥＡ会長代理の末佐喜一専務理事が順次挨拶した後、内田、玉木、駒井徳造（セガ社）の三氏によりテープカットが行なわれた。

同ショーは新風営法施行日に開幕したが、出品機に「八号営業用」の表示をする予定を中止し、「年少者もスロットマシン等で遊べるが、注意を要する」旨の〝宣言〟を掲示した。しかしこの宣言の作成目的、経過などはまったく明らかでない。

宣言

風営適正化法は、スロットマシン等メダルゲームもテレビゲーム等と同じ扱いとし、年少者も成人と同様に遊戯することを認めております。

しかし、これはあくまでも法律的な見方であって、社会通念による抑制はまた別のことであり、業者として当然自粛すべきところもあろうかと考えます。

従ってＮＡＯは、これらの遊戯機械を管理運営するに当って、年少者の多いロケーションに於いては、スロットマシン等のメダルゲーム・カードゲーム等大人向機械の運用については、青少年の健全育成に妨げとならないように充分配慮するとともに、明朗で健康的な環境の維持に努めることをここに宣言します。

独特の二重画像で

タイトー、新ＴＶゲームシステムを発表

「ワイバーン　Ｆ－０」の画面

㈱タイトー（本社東京、中西昭雄社長）では、二月十三日、東京で開かれたＮＡＯショーで同社独特のマルチモニター方式によるアップライト型ＴＶゲーム機「ワイバーン　Ｆ－０」を発表し、話題を呼んだ。

これは二つのブラウン管と一枚のハーフミラーを使用し、メカ的な立体画像効果を実現した画期的なシステム。ゲーム内容は上下にスクロールする地上シーンをバックに、その上空を戦闘機が敵機を撃破しながら地上基地を破壊し進んでいくもので、戦闘機や発射弾などが地上から浮き出して見え、これまでのＴＶゲーム機になかった立体感を表現している。

タイトー「ワイバーン　Ｆ－０」本体

このシステムの仕組みについては、同社の説明によると、ハーフミラー（透過度五〇％のものを使用）をキャビネット中央に水平に設け、このハーフミラーから少し距離をおいて上部と下部にそれぞれブラウン管をハーフミラーに向けて斜めにセットされている。これで斜め上からハーフミラーを見ると上下の画像が重なって見えるが、さらに立体感を出すため、上部ブラウン管とハーフミラーの距離を下部のそれよりも短くしてある。この距離の違いが立体感を表現するポイントになっている。画像については上部ブラウン管に戦闘機、敵機、発射弾などが、下部ブラウン管にはそれらの影と地上風景、スコアなどデータ類が表現されている。なお、上部ブラウン管の画像はミラーに逆に映し出されるため、偏向コイルにより画像進行方向を逆にしている。

同社技術部では「ゲーム進行に合わせた二つの画像の一致、それと操作部との連動に工夫を要した」と説明している。

なおこれまでハーフミラーを使用したゲーム機はガンゲーム機などや、また同社が数年前に発表した「インベーダー」アップライトカラー版があるが、それらとはまったく異なる使い方をしている。この新システムについて同社技術部では「一年ほど前から開発を進めてきて、これで技術的な基礎が固まりめどがついた。今後、ハーフミラーを操作に応じて移動させ遠近感を自由に操るなど、その応用次第でＴＶゲームの画像表現とともにゲーム内容が、従来とは大きく変わっていく可能性がある」としている。

全国環境浄化協会に防犯協会連合会指定

許可申請のための「セット」販売

新風営法に基づく「全国風俗環境浄化協会」に二月十三日、㈶全国防犯協会連合会（事務局東京、渡辺武次郎会長）を指定した。これは新風営法第四十条第一項の規定により、国家公安委員会が告示したもの。

全国風俗環境浄化協会の事業は法第四十条第二項に掲げられており、また「都道府県風俗環境浄化協会」の指定やその事業については法第三十九条に掲げられているが、警察庁によるとこれらは既存の防犯協会が浄化協会の業務を行なうことになるだろうとしており、都道府県の防犯協会協議会などが協力するもようである。

「八号営業」を新規に始める場合や、既に営業している者でも五月十三日以降引続き営業する場合は、必ず法第三条第一項の「許可」を受けなければならず、それには「許可申請」の手続きが必要となるが、そのための便利な書式セット「風俗営業（料飲関係営業・ゲーム機設置営業等）許可申請等セット」（風俗問題研究会著、定価千五百円）が日本法令（本社東京）から二月十三日付で発売となった。このセットには許可申請書などの用紙一式と、その記入例などを盛り込んだ手引書がついており、許可申請する者にとっては必需品ともなるもの。

風俗環境浄化協会の業務の手始めとして、各都道府県の防犯協会では、このセットの販売を二月上旬から開始している。なお各地の防犯協会については、各地の警察本部（東京は警視庁）防犯課などに問い合わせれば所在地などがわかる仕組みになっている。

「風俗営業許可申請等セット」の表紙から

防犯課長に石瀬博氏　古山氏は静岡県警へ

警察庁２月18日付異動発令

警察庁は二月十四日、防犯課長の異動を含める人事異動を発表した。これらはすべて十八日付で発令され、新たに石瀬博大阪府警総務部長が警察庁刑事局保安部防犯課長に就任した。

関連する主な異動内容は次のとおり（カッコ内は旧職名、敬称略）。

静岡県警本部長（警察庁防犯課長）古山剛、沖縄県警本部長（警察庁少年課長）山田晋作。

警察庁防犯課長（大阪府警総務部長）石瀬博。

石瀬氏は昭和三十四年東北大学大学院卒。五十五年警察庁少年課長、五十七年三重県警本部長、五十八年八月大阪府警総務部長を歴任。富山県出身。五十一歳。

SCロケ用新協会

風営化対策で急ぎNSA設立、内田氏会長

ショッピングセンター（SC）など大規模小売店舗内にゲームコーナーなどロケーションを持つオペレーターが集まり、一月三十日に「日本SC遊園協会（略称NSA）」を設立したが、SC内ロケをそれぞれ具体的に検討した場合に「八号営業所」になるのかどうかはいぜんとして不明であり、同協会の意義や今後が問われたままスタートしたことになる。

同協会は新風営法施行に伴ない、法案段階での警察庁説明ではSC内ロケが風営対象外となっていたはずにもかかわらず、その後は風営対象になりうるとの見解に落着きつつあることから、全国のSCロケ・オペレーターによる新団体を作り、運動していくとの観点で、㈱友栄の内田博社長ら二十六社が設立準備会を作り、十二月十九日、一月十日と会合を開いた上で設立総会へと進めたもの。

設立総会は一月三十日東京・霞が関の東海大学校友会館で開かれ、これにSCロケ・オペレーター四十四社が出席した。

冒頭、準備人会の内田代表は「警察庁見解の変化に対応してSCロケ専業の業者団体を作る必要がある。また風営法対策だけでなくSCオペレーターの発展を願いたい」と設立趣旨を含めた挨拶を行ない、急ぎ新協会を設立したいと結んだ。この後、出席者自己紹介、NAO宮原常務による新風営法の規制についての説明があり、当初この会合を発起人会としていたのを設立総会に切り替えた。

まず議長に内田氏が選出され、事業内容、定款、入会・会費規定がそれぞれ検討の上、承認された。それによると会員資格者は「大規模小売店舗等の遊園施設の管理運営を営む法人または個人」で、違法営業者などは除かれている。入会金は二月末まで三万円、それ以後五万円で、会費は一律年額十二万円。主な事業内容は①自主規制の制定と指導、②健全娯楽の推進と青少年健全育成への協力、③関係官庁、教育関係者等への折衝と広報活動などとなっており、景品類の開発も事業に含まれている。

役員の選出、正副会長の選出は議長一任の形で行なわれ、次のように決まった。会長＝内田氏、副会長＝山田俊夫氏（㈱トーゴ）、吉川正明氏（㈱三栄商会）。理事＝三井良治氏（三井遊園企画㈱）、梶格康氏（㈱中外アソシエーツ）、梅村富久氏（㈱水野商会）、藤原忠氏（朝日科学模型遊園㈱）、菊池康男氏（㈱ワイドレジャー）、高畑吉秀氏（㈱日高商会）、宮本博吉氏（㈱サンレジャー）、矢野徳蔵氏（㈱ホープ）、山本隆司氏（中央娯楽㈱）、早見儀信氏（㈲タイガー娯楽）、加茂飛智男氏（㈲東横娯楽）、富田紀一氏（エイトレジャー物産㈱）、八尾嘉有氏（オーケー興産㈱）、角田一郎氏（㈱ツノダ）、島田武氏（東亜観光㈱）、緋本祥男氏（㈱ダイエーレジャーランド）、中西昭雄氏（㈱タイトー）、駒井徳造氏（㈱セガ・エンタープライゼス）、真鍋正氏（㈱ナムコ）、以上理事会社二十二社。監事＝高柳孝一氏（㈱ブラザーズ商会）、遠藤栄氏（日本娯楽機㈱）。

なお二月中旬現在会員数は五十四社とのことで同協会員のうち半数近くが役員になっていること になる（総会後に数社役員の追加選任があった）。

同総会では①自主規制制定、②広報、③景品開発、④風営対策、⑤研修の五委員会を設置することを会長が提案、承認された。各委員長の選任などについては会長一任となった。また事務局はNAO事務局の半分を使用し専従職員を置くことが承認された。チェーンストア協会など他の団体への加入も会長一任で承認された。

風営法に関する陳情は正副会長一任で了承され、自主規制の内容については後日委員会で検討することになった。また景品については四業者からのサンプル説明により、後に検討することになり、景品の共同購入により協会として数%のマージンを得ることが了承された。

日本SC遊園協会＝東京都渋谷区渋谷一の八の三、安田生命ビル、☎四八六―六六六一。

写真はいずれも日本SC遊園協会設立総会（1月30日）のようす

風営の適用除外求め早速NSAが陳情文

日本SC遊園協会（NSA）では、設立直後の二月二日付で警察庁に対し、SCロケのゲームコーナーについて「場所」に関する適用除外の拡大と本来七号営業になる景品払い出しゲーム機の八号営業での営業放任を求める陳情書を提出した。その全文は次のとおり。

◎二月二日付NSA・内田博会長から警察庁保安部・中山好雄部長あて陳情書

陳情書

昭和六十年一月三十日、日本SC遊園協会が設立されました。

その目的は全国のデパート、チェーンストア、ショッピングセンター等大規模小売店舗内の遊戯場経営者を結合し、営業内容の向上と自主的な規制の徹底をはかり、健全娯楽を推進し、青少年問題等の発生がないよう最大の努力を尽すことにあります。

ここに設立の御報告とあわせ今後の貴庁の御指導をたまわり度く御願い申し上げる次第でございます。

さて風営適正化法の施行に当り、大規模小売店舗等にあるゲームコーナーについて、客利用面積に対しゲーム機分用面積が一〇%以下の場合は許可対象としないとの御内示を伺いましたが、これら大店舗内の管理情況は極めて良好であり、更に自主規制等によって協会の責任において環境浄化に努めてまいりますので下記事項をぜひ御再考お願い致したく陳情致します。

(1) 面積比率をもっとあげてほしい
(2) 子供用プライズゲーム機は規制対象外としてほしい。

以上

なお同協会ではその後二月十四日にNSビル会議室で第一回理事会を開き、景品開発委員会をはじめ商品推進、自主規制、研修、広報、渉外、福祉親睦、風営対策の八つの委員会の設置などについて検討したもようである（判明次第続報の予定）。

たもあ第1回総会

上の写真は東京都AMOP協会第1回臨時総会（2月4日）のようす

東京都アミューズメントマシン・オペレーター協会（事務局渋谷、中西昭雄会長、略称TAMOA）では二月四日、新風営法施行（同十三日）を前に同協会の組織固めを行なうための第一回臨時総会を東京・霞が関の東海大学校友会館で開いた。また同八日、同協会は新風営法に基づく「許可申請説明会」を開いている。

TAMOAのこの臨時総会では冒頭、中西会長が「新風営法施行を前に会員の認識を一層深めるため総会を開いた。法には従わねばならないが、業界にとって最も大事なことは、一致団結して法に掲げられた課題を克服し社会に認められる業界へ高める努力をすることである。そのため部会、委員会の活動を進める方針なので協力をお願いする」と挨拶、中西氏が議長となって進められた。

八号と〇号の部会制

八号部会内に都下8ブロックの支部を設ける

総会では、設立総会（十月八日）後新たに理事となった田所武氏（㈱東京マルサン）と小倉忠弘氏（㈱ジーエム商事）が承認され、次にこの間の活動報告として㋑事務局設置の件、㋺都の施行条例に関する折衝活動の件、㋩理事会開催の件がそれぞれ井上昭男常務から説明された。

定款において同協会の事業内容は、許可申請等の「代行業務」を掲げていたが行政書士法に抵触することから「指導業務」に定款を変更する、との定款変更案が承認された。なお入会金規程で、入会金の免除を昨年末から二月四日までに変更することも承認された。

協会組織が議題となったが、これは同協会内の下部機構を指すもので、中西会長は「警視庁に合わせて都内に八支部設けたい。第四回理事会での素案に基づき進めたい」として理事会に一任するよう求め、承認された。

素案によると、協会は八号営業者の「八号協会」とそれ以外の「〇号協会」とに「部会」を二つ設けて、「八号協会」内に都内八支部設け、さらにその下にオペレーターとロケオーナーを区分するとのこと。駒井徳造副会長は「許可申請人はオーナーの場合が多いと予測される。定款改正の必要な場合がありうる」、内田博副会長は「素案では協会内に二つの協会があるようだが二つの部会と解釈してほしい」と補足説明している。また四つの委員会を設けるとのことである。

全国連合会の設立に向けての活動が井上氏から報告され、内田氏は「TAMOAはJAMMAと無関係。連合会が出来たらNAOの財産を寄付したい」と補足し、結局連合会作りについては中立の立場で進めることで理事会に一任することが承認された。

この後、下位法令の解説と今後の見通しについて井上氏が説明し、また「年少者立入り禁止」のポスター作成などについて了承された。同総会終了後は懇親会が開かれた。

また二月八日には八号営業者の許可申請に関する説明会が行なわれている。同協会の会員数は二月四日現在百八十一社とされている。

なお同協会では一月十六日に第三回の、二月一日に第四回の理事会をそれぞれタイトー本社で開いており、第三回理事会では補充理事の件、入会金免除期間延長の件、協会組織に八区ブロック設置する件、機関紙「たもあニュース」構成の件などを討議しており、第四回理事会では新風営法に基づく団体届出の件、協会組織構成案などが討議されている。

「八号営業」で質疑も

兵庫はAMOP協主催、大阪は府警主催で

各地で「新風営法」説明会

京都府（一月二十一日）に引続き、新風営法「八号営業」に関する説明会が、兵庫県では一月二十四日に神戸・三宮のサンパルビルで、大阪府では同二十九日に大阪・谷九の大阪職業訓練センターでそれぞれ警察本部担当官により行なわれた。

兵庫の場合は兵庫県アミューズメントマシン・オペレーター協会（河合久雄会長、会員数八十四社）主催で、県警本部保安課の妹尾勲課長と小西正次調査官が説明に当たり、これに約百八十社二百名が参加した。一方、大阪の場合は府警本部保安課が主催し、これに大阪府アミューズメントマシン・オペレーター協会（梅原靖三会長、会員数約二百八十社）が協力する形をとり、保安課の坂本安幸課長補佐が説明、約三百四十社六百人が参加した。それぞれの説明会では配布資料に基づき「八号営業」について説明が行なわれたが、兵庫の場合は質疑応答があり、大阪の場合は質疑応答がなく後ほど大阪府AMOP協会でまとめ提出する形となった。

兵庫県の説明会では同県AMOP協会の川口耐三監事の司会で、まず河合会長が挨拶、川上秀雄理事による簡単な経過報告があり、説明会へと進んだ。説明会で妹尾課長は八号営業の主なポイント三点（場所の制限、兼業の場合、法の目的）を挙げた上で「あくまでゲーム遊びに徹し、違法営業にならないよう」強調した。続いて小西調査官が詳しく説明、質問にも応じた。この中で小西氏は場所における面積比での除外措置について触れたほか、①父兄同伴でも入場規制はかかる、②フェリーなど船や車の中でも同様の規制がかかる、③道路面では道路使用の問題が残る、④制限地域にある風営店が焼失した場合など、多岐にわたり具体的に答えている。小西氏は、八号営業対象業者は五月十二日までに許可申請するよう強調して、説明会を終えた。

大阪府の説明会では保安課の中村警部が司会となり、坂本警部が「八号営業」の全般にわたり説明した。その中で同氏は大阪府の施行条例で十六歳未満者の立入りを午後七時までにした点に関して、「当初午後六時と考えていたが、大阪府AMOP協会が自主規制で午後六時を守るとしていることから、青少年条例を尊重するため午後七時とした」と説明した。

説明会は「わかり難い点については後日とりまとめて質問する」との梅原氏の挨拶で締めくくられた。その後、二月十九日に大阪府AMOP協会が第一回定時総会を開催後「申請手続き説明会」を坂本氏を講師に招き開いている。

なお近畿では他に和歌山で二月七日、和歌山東急インにおいて、ペンダープラニング㈱（本社和歌山、金谷晴夫社長）の単独主催で開かれ、県警本部から担当官を招き開かれている。同説明会には約百名の業者が参加しており、県単位の協会を作る方向で設立準備委員会（十五名）を発足させたとのこと。

上は兵庫県説明会（円内は小西氏）、下は大阪府説明会（同坂本氏）

県警担当官招き

神奈川、福岡は組合主催で

神奈川県アミューズメントマシン・オペレーター組合（加茂飛智男会長、会員数三十六社）では二月八日、県警担当官を招いて新風営法「八号営業」に関する説明会を開いた。説明会は横浜西センターで行なわれ、約七十名の業者らが出席、神奈川県警防犯課の小形係長が講師となって進められた。同氏は「八号営業」の全般にわたって説明した後質疑応答に応じている。この中で同氏は、①五月十二日まで二十四時間営業できる、②深夜飲食店では零時以降ゲーム機のコンセントを外しカーバーをすればよい、③クレーンなど景品提供ゲーム機は七号営業であり八号営業で使えない、などの見解を示した上で、後日確認したいとしている。同氏は、だれが申請者になるかはゲーム機で最も多く収益をあげている者かで判断できる、と締めくくっている。

なお関東各地でも同様の説明会が行なわれたもようであるが、とくに東京都の場合は広い地域に及ぶため警察庁のもとで各警察署単位に開かれている（但し、業者協会によるものではない）。

また福岡県では福岡県健全娯楽業協会（児玉輝男会長、会員数五十三社）主催により、一月二十八日、福岡市内の市民会館で新風営法説明会を開催、これに福岡県警防犯課の行武嘉幸課長補佐が招かれて説明を行ない、質疑応答に応じている。

上の写真は神奈川県AMOP組合主催による新風営法八号営業説明会

欧米市場に意欲

泉陽興業がベコマ社と提携

ベコマ社と川鉄商事の提携は継続

泉陽興業㈱（本社大阪、山田三郎社長）ではこのほど、オランダの遊園施設メーカーであるベコマ・インターナショナル社（JHM・ホーベン社長）と十二月十四日両社の技術を含めた業務提携の調印式を行なったことを明らかにした。

これは昨年初めに両社社長が東京で会談したのを皮切りに、両社長が互いに相手の工場などを訪問、交流を深めた上で相互の信頼関係を確認して成立したもの。業務提携の内容は、泉陽興業によると①相互技術協力、②相互製造協力、③泉陽はベコマ社製品を日本を含むアジア地域で販売、ベコマ社は泉陽製品を欧米地域で販売する、となっている。

ベコマ社は欧州の有力遊園施設メーカーのひとつで、米国アロー社製品を扱う一方で自社開発も行なってきている。昨年の新製品は往復宙返りの「ブーメラン」、ダブル垂直回転型「スカイフライヤー」などで、同社では欧州だけでなく北米市場にも進出してきている。

ベコマ社については、同社製「スーパーループ」が昨年、川鉄商事㈱が代理店となって、後楽園ゆうえんちに導入されており、川鉄商事ではベコマ社との代理店契約を継続しているとしている。また関係者筋によると、泉陽興業とベコマ社との業務提携は非独占的なものであり、それぞれの機種のそれぞれの販売代理について行うことができる、という内容とされている。なお泉陽興業では今後、欧米市場にも積極的な進出を図ることを明らかにしており、今回の業務提携はその第一ステップであると言うことができるが、具体的な計画は明らかではない。

提携した泉陽・山田社長（左）とベコマ社・ホーベン社長（右）

アタリFE閉鎖

米国アタリ社の異動に伴ない

アタリ・ファー・イースト（ジャパン）㈱（本社東京、リビントン・ハイト社長）が一月三十一日付で閉鎖した。同社は昭和五十七年四月に設立され、アタリ社製業務用TVゲーム機のマーケティングなどを行なってきていた。

同社は米国アタリ社の日本における子会社としてスタートし、アタリ社製品のマーケティングのほか、日本のメーカーとも交渉を行なってきた。しかし米国アタリ社が昨年、業務用（アタリゲームズ社）を除いてジャック・トラミエル氏に買いとられたことに伴ないアタリ社の極東市場への取組みが混迷してきたため業務用についても、日本での活動が困難となり、アタリ・ファーイースト社は昨年十二月にも閉鎖することが決まっていた。

ハイト氏は日本のビジネスにおいてきれいに清算したいとの意向で、会社整理を進めた結果、一月末で正式に閉鎖となったもの。

ナムコによるアタリ・ゲームズ社の経営権取得は、今回のアタリ・ファーイースト社閉鎖と全然関係がないとのこと。

特許・実用新案出願公告・公開

（2月15日～22日）

特許庁に出願された特許および実用新案の公告ないし公開の最新分で、AM業界関連のものは次のとおり。記事内容は、公告／公開の日付、発明／考案の名称、出願人、公告／公開番号、出願番号の順に掲載。なお(請)は審査請求のあったものを示している。具体的な内容については、各地の発明協会などにお問い合わせ下さい。

特許出願公開

二月十八日付＝「揺動遊戯装置」、㈱タイトー（東京）、花木将子（東京）、公開31784、58―141655。

二月二十二日付＝「ボウリング遊技装置」、松山岩城（宮崎）、公開34478、58―150981。

実用新案出願公開

二月二十一日付＝「ゲーム装置のハンドル」、㈱タイトー（東京）、公開25680、58―117065。「旋回シート装置」、明昌特殊産業㈱（大阪）、公開25686(請)、58―115996。

三重AMOP協
2月15日の第1回総会で正式に

鈴木光紀会長

三重アミューズメントオペレーター協会（事務局三重県度会郡、鈴木光紀会長）では二月十五日、津市内の島崎苑にて事実上の設立総会と言える第一回総会を開き、定款や役員などを承認した。また同総会では会議に先立って三重県警の担当官による新風営法説明も行なわれた。

同協会は一月二十一日の会合で定款の大要が承認されており、事実上発足している（本紙前号既報）が、今回の総会で定款や役員を承認したことにより正式に発足したことになる。

同総会には六十七名の業者が出席、三重自動販売機㈱の松本静雄氏の司会で進められた。まず鈴木会長が挨拶を述べ、次に同県議会の下井正也議員が来ひん挨拶を行なった。続いて同県警防犯部防犯課の藤居守課長補佐が新風営法の説明を行なった。同氏は新風営法に関する概略や申請手続などについて説明、この後これに関する熱心な質疑応答が行なわれた。

説明会終了後業者のみの会議が行なわれ、まず松本氏より同協会の役員が紹介され、改めて承認された。同協会の役員は次のとおりとなった。

会長＝鈴木光紀氏（㈲鈴木商会）、副会長＝横田英男氏（新誠商事㈱）、纐纈真一郎氏（シンワ商事）、宿谷英雄氏（㈲大栄商会）、米川武彦氏（㈱四日市ヘルスセンター）、松本静雄氏。

理事＝中瀬手八氏（㈲ミタケ）、笠井昭夫氏（オートスナック雲出）、近藤正純氏（㈱名阪遊園）、前嶋奎吾氏（サンレジャー企画）。なお監事については会長に一任することになっている。

定款については細部にわたり審議され、異議なく承認された。それによると同協会の入会金は二万円、会費は月三千円となっている。

このほか同総会では営業時間に関する自主規制などが検討されたが、結論が出ず、これについては理事会で検討することになった。

三重AMOP協第1回総会で県警・藤井課長補佐による説明会

中部AMOP会臨時総会（2月2日）のようす

中部AMOP会が臨時総会
「愛知県OP協」
必要に応じ別名の使用を承認

神出英生会長

中部アミューズメントオペレーター会（事務局名古屋、神出英生会長、会員数八十九社）では二月二日、名古屋市内のサンプラザにて臨時総会を開き、同会の予決算について承認したほか、同会が愛知県警と折衝する際は「愛知県ゲーム機オペレーター協会」の名称を別名として使用していることが承認された。

予決算については、もともと同会の事業年度は三月末になっているが、新風営法施行などにより今回に限り年度を三ヵ月繰上げ、五十九年十二月までの九ヵ月決算、六十年十二月までの一年三ヵ月の予算とし、それぞれ原案どおり可決された。また任期満了に伴なう役員改選については、これも新風営法との対応がらみということで、少なくとも五月十二日まで現状のままとすることが承認された。

このほか同会が愛知県警と折衝する場合に限り「愛知県ゲーム機オペレーター協会」という名称を使用していることが了承された。この件については不明な点もあるが、同会会員のほぼ全員が愛知県下でAM機のオペレーションに携っていることから、新たに愛知県単位のオペレーター組織を作るよりも、むしろ既存の組織を活用するとの考えで「愛知県ゲーム機オペレーター協会」の名称を代用していることになる。なお同会によると、八号営業者のみの団体を設立する考えもあるが、新風営法施行において八号営業者かそうでないのか不明な点がいぜん残っており、経過をみて今後どうするか考えていきたい、としている。

以上のほか総会では新風営法問題に関する情報交換などが活発に行なわれた。

新ゲーム続々投入
セガ社パソコン用、さらに6種

㈱セガ・エンタープライゼス（本社東京、中山隼雄社長）では同社ホームパソコンSC－3000シリーズ、ホームTVゲーム機SG－1000シリーズ向けのゲームソフトをすでに約三十種発売しているが、二月から三月にかけてさらに六種類発売することを明らかにした。その内訳は次のとおりである。

「ザクソン」（二月中旬）、「チャンピオン・プロレス」（二月下旬）、「GPワールド」（三月下旬）＝いずれもセガ社開発ゲーム。「ハイパースポーツ」「新入社員とおる君」（三月下旬）＝いずれもコナミ工業開発で許諾品。「スターフォース」（三月下旬）＝テーカン開発で許諾品。

なお他社開発ゲームで許諾品は以上のほか、これまでに「エクセリオン」（ジャレコ開発）、「ジッピーレース」（アイレム開発）、「セガ・ギャラガ」（ナムコ開発）、「ロードランナー」（米国ブローダーバンド社開発）があり、キャラクター使用では「ゴルゴ13」（さいとうプロ）、「オーガス」（ビッグウェスレなど）で許諾を受けている。

◀セガ社「GPワールド」

「ハイパースポーツ」▶

静岡AMOP協
1月22日設立、NAO支部は解散

吉川正明会長

静岡県下のAM機オペレーター団体「静岡県アミューズメント協会」の設立総会が一月二十二日、伊豆長岡の長岡ホテルにて開かれ、同協会は正式に発足した。

同協会はNAO静岡支部（吉川正明支部長）が中心になって設立準備を進めてきたとされている。同支部では十一月十六日に例会を開いて、新組織の問題について検討を行なった。その結果、同例会を総会に切り替えて①同支部を十二月末で解散すること、②一月からは新組織として活動することなどを決議した。なお新組織の設立準備委員会は同支部の理事で構成されており、同委員会の呼びかけで今回の設立総会を開いたもの。

設立総会には五十数社が出席、定款の承認、役員選出などを行なった。同協会の事情により定款など明らかにされていないものもあるが、同協会によると会員資格は八号営業であるなしを問わず県内でオペレーター事業を営む者とされている。入会金は一月末までの入会者は五万円、それ以降は十万円で、会費は一律年六万円とされている。また役員は次のとおり選出された。

会長＝吉川正明氏（㈱三栄商会）、副会長＝杉山勉氏（㈱ライト）、曽我栄蔵氏（㈱西部リース）。

理事＝加茂善康氏（㈲東名遊園）会計担当、石田善久氏（石田食品㈱）、星谷清重氏（㈲星谷アミューズメント）、市川信司氏（㈱市川商事）、中嶋卓夫氏（静岡リース）、寺田善吉氏（テラダ玩具）。

監事＝和田章二氏（アレックスキャビオート㈱）、中沢守氏（㈱中央企画）。

また相談役として早見儀信氏（㈲タイガー娯楽）が選任されている。なお同協会の役員には、その会員の代表役員しか選任されないことになっているもよう。同協会の事務局は㈱三栄商会（沼津市大岡上西耕地二八九五の二、☎〇五五九－二三－四九〇〇）内に設置されている。

同協会によると二月上旬現在での会員数は四十四社。また同協会では二月七日に臨時総会と静岡県警より担当官を招き、新風営法に関する説明会を開く予定、としている。

また以上に伴ないNAO静岡県支部は十二月三十一日付で解散している。

新日本企画、「模倣防止表示法」特許で
20数社に警告
各社対応さまざま、望まれる円満解決

㈱新日本企画（本社大阪、川崎英吉社長）では同社出願による「TV遊戯機の模倣防止表示法」の特許が確定したことから、二月中旬TVゲーム機メーカーなど二十数社に対して警告書を送付したことを明らかにした。

同社によると、現在製造されているTVゲーム機はほとんどすべて同社の特許を使用しており、特許使用料の支払いを求めるとしている。

同社のこの特許は昭和五十四年一月に出願、五十五年八月に公開、同五十九年四月に公告、同十二月に登録されて特許権としては確定した。その特許の「請求範囲」は大旨複数のROMを使用するTVゲーム機で、TVゲームプログラムと模倣防止を表示するプログラムを組合せて、TVゲームとともに模倣防止表示をブラウン管上で行なうという方法。同社によると、TVゲーム画面において©社名の表示が出るものはすべてこの特許の方法に基づくものとして、特許使用料の支払いを求める「警告書」を各メーカーに送付しているが、送付先のメーカーの対応によっては柔軟に対処する可能性もあるとしている。

「警告書」を受けとったメーカーの対応ぶりはさまざまで、新日本企画によると特許使用料の支払いに応じる姿勢のところが数社あるとのこと。しかし、ある大手メーカーによると「この特許の内容にはいくつかの問題点があり、無効審判を請求することもありうる」と語っている。一方では「企業レベルでの対応でなく、将来的に見てメーカー協会などが政策的に解決する方向を打ち出す契機にするべきではないか」との見方もあり、今後の円満な解決が望まれている。

ファミコン用にハドソンに対し
テーカンが許諾

㈱テーカン（本社東京、柿原孝社長）ではこのほど、同社TVゲーム「スターフォース」を、㈱ハドソン（本社札幌、工藤裕司社長）が任天堂製「ファミリー・コンピュータ」用カートリッジ化することで、ハドソンに製造許諾したことを明らかにした（発売時期未定）。

ハドソンは任天堂「ファミリー・コンピュータ」用に、すでに自社開発の「ナッツ&ミルク」、米国ブローダーバンド社開発の「ロードランナー」をいずれも昨年八月発売、自社製「バンゲリング・ベイ」を二月末から発売しており、任天堂「ファミコン」の強力なソフト供給メーカーとなっている。

論潮
法施行上の混乱

新風営法のもとで「八号営業」は五月十二日まで二十四時間営業ができるか――という疑問については、法律上は可能であるとするのが法律の専門家たちの見解である。

法律をそのまま解釈すれば、新風営法第二条第二項で「風俗営業者」とは法三条一項の「許可」を得たものであり、単に「風俗営業を営む者」とは許可を得ているか否かで異なる。八号営業を営む者は、付則第二条で五月十二日まで（それまでに許可申請すれば許可か不許可の通知のある日まで）許可なく営業できる、とあるので、この期間中許可なく営業できる者は営業時間だけでなく法十二条以下の「遵守事項」を必らずしも守る必要はないが、法第二十二条以下の「禁止行為」に違反することは許されない――ということになる。

そこで、経過期間において許可なく営業できる者が二十四時間営業をするなど「遵守事項」を守らない場合、どういう不利益を受けるかということになるが、新風営法上はいかなる罰則、行政処分も用意されていないと考えられ、残るは法三条第二項において許可を与える場合にできるだけ厳しい「許可条件」を付すことぐらいである。巷間噂されている「許可手続きで警察側が業者に不利益な扱いをする」というのは、法律的根拠を見出すことができないので誤説と言うべきだろう。

現実には全国の盛り場で警察官は〝午前〇時までの終業〟を業者に指導し、それ以外では放任しているようである。地方での深夜営業は多いと言われており、それが現実だと思われる。これらの現実は、衆参両院で採択された付帯決議、特別決議にも矛盾していると言うことができる。行政の原則のひとつは均一性に求められるはずであるが、法の施行においてこうした混乱が生じたのは残念なことである。

法律上のスキ間に営業上の利益を求めようとする気持はそれなりに納得できるが、法の趣旨目的を考えれば将来性のない虚しい行為だと言える。

バリージャパンの新社長に
カーシー氏就任
米バリー社の筆頭重役が兼任

ロジャー・カーシー氏

㈱バリー・ジャパン（本社東京）ではこのほど、二月十八日付で代表取締役社長がマーロン・J・バーバー氏からロジャー・N・カーシー氏に変更したことを明らかにした。

これは同社の親会社である米国バリー・マニュファクチュアリング社（本社シカゴ、ロバート・ミューレーン会長兼社長）による人事異動で、前社長のマーロン・バーバー氏は、米本社のギャンブル機部門（ゲーミング・ディビジョン、本社イリノイ州ベンセンビル）の社長だったが昨年十一月に副社長に降格（本紙第251号「海外の話題」参照）され、十二月二十日には退社していた。従って、バリー・ジャパンではその時点で事実上の代表者変更となっていたが、日本での登記手続きなどで時間を要し、今回の発表となったもの。

バリー・ジャパン新社長のロジャー・カーシー氏は、バリー本社では執行副社長の肩書を持ち、事実上ミューレーン氏に最も近い重役のひとり。バリー・ジャパンの代表者を兼任することになったが、これにより米本社との円滑な連携が期待されている。カーシー氏はバージニア大学で電子工学を修めた後、大手家電メーカーであるゼネラルエレクトリック社で二十三年間勤務、最終的にはビデオ関連機器製造部門の責任者だった。その後、八三年十月バリー社の執行副社長に抜てきされた。

レジャー産業青森
中村幸雄会長 中村縁社長に

東北有数のオペレーター会社のひとつ、㈲レジャー産業青森（本社青森、中村幸雄社長）ではこのほど、二月一日付で中村社長が会長に、子息の中村縁氏が社長に就任したことを明らかにした。

取締役会長＝中村幸雄氏、代表取締役社長＝中村縁氏。

中村幸雄氏は青森県アミューズメント・オペレーター協会の会長。また系列会社の㈲レジャー産業秋田、㈲レジャー産業八戸、㈲レジャー産業むつ、㈲中村商事と併わせ「レジャー産業」グループがあり、その会長でもある。

法人に改組

㈲アヅマ（旧・吾妻娯楽）＝東京都東村山市秋津町五の三十二の十一、☎（〇四二三）九三－〇二四三、羽下寿雄社長。

㈱タイガー商事（旧・タイガー商事）＝大阪市鶴見区今津南一の四の十、☎九六二－九四二五、鈴木民夫社長。

事務所移転

今井電子工業㈱＝大阪市浪速区稲荷二の六の十五、☎五六八－七三二六、今井利日児社長。

法と条例に基づく 「新風営法」下の遵守事項等

禁止行為には罰則規定 遵守事項では指示など

年少者入場制限は16歳未満、午後6時が主流

新風営法では、旧法下で条例事項となっていたものを法律事項に移したものが多いが、とくに「風俗営業者の遵守事項等」は新法第三章にまとめられた。その上で条例による遵守事項をさらに委任しているため、少し話は複雑になるが整理すると次のようになる。

つまり「風俗営業者の遵守事項等」は、

1 法律による「禁止行為」

① 風俗営業者全般に係わる一般的禁止行為（法二十二条）

② 七号・八号営業者に係わる特別禁止行為（法二十三条）

2 法律による遵守事項

① 風俗営業者全般に係わる一般的遵守事項（法十二条－十八条）

② 七号営業者に係わる特別遵守事項（法十九－二十条）

③ 条例への委任事項（法二十一条）

このほか「名儀貸しの禁止」（法十一条）を禁止事項として、また「管理者の選任」（法二十四条）を遵守事項として考えることができるが、大まかには右のような仕組みになっている。うち条例への委任事項があるため、

3 条例による一般的遵守事項

4 条例による特別遵守事項

が加わることになる。

以上のうち、法律による禁止行為は罰則で担保されているが、「遵守事項」については違反した場合、まず「指示」（法二十五条）が与えられ、次に許可の取消しか営業停止の行政処分が行なわれ（法二十六条）、それでも営業した場合は「無許可営業」として処罰するというふうになっている（「指示」を入れたのは今回の法改正の特徴のひとつである）。

法律による一般的禁止行為は、①客引き、②十八歳未満者に客の接待をさせることなど、③十八歳未満者を客として立ち入らせること（但し八号営業所では午後十時以後、また条例で年齢と時刻を定めたときは、その年齢以下の者のその時刻以後について禁止）、④二十歳未満者に酒やたばこを提供すること、の四項目。

八号営業に係わる法による特別禁止行為は、①遊技の結果に応じて賞品を提供すること、②遊技用のメダルなどを客に外へ持ち出させること、③遊技用のメダルなどを客のため保管することを表示する書面を客に発行すること、の三項目。

次に具体的な「遵守事項」だが、法による一般的遵守事項は、①構造および設備の維持、②営業時間の制限（うち条例事項については、本紙第254号で解説）、③照度の規制、④騒音および振動の規制（条例事項については本紙第254号で解説）、⑤広告および宣伝の規制、⑥料金の表示、⑦年少者の立入禁止の表示（但し八号営業所では法律、条例で定められた年齢、時刻について）、の七項目。

法による特別遵守事項は七号営業についてのみなので省略する。

これに条例による遵守事項が加わる。

5項目はほぼ共通に

風俗営業者共通の一般遵守事項

「条例による遵守事項」については、全国四十七都道府県とも規定しており、いずれも風俗営業者全般に係わる「一般的遵守事項」と、特定風営業者に係わる「特別遵守事項」とに区分して規定している。なお、ほとんどすべての条例で、「遵守事項」と表現されているが、秋田など八県においては「行為の制限」、山形と神奈川両県で「守るべき事項」、そして福井県では「禁止行為」との表現を用いて、遵守事項を定めている。

まず「一般遵守事項」に関して、ほとんどの条例で規定されているのがⓐ卑わいな行為その他善良の風俗を害する行為の禁止、ⓑ客の宿泊禁止、ⓒ客の求めない飲食物の提供禁止、ⓓ営業所内での風俗関連営業の禁止、ⓔ営業中の施錠禁止、などである。

ⓐについてはすべての条例で定められており、例えば青森県では「営業所で、卑わいな行為その他善良の風俗を害する行為をし、又は客にこれらの行為をさせないこと」としている。なお秋田、長野両県では「卑わいな行為」のみを規定しており、鳥取県では「みだらな行為その他善良の風俗を害する行為」という表現で規定している。またこれに関連して静岡、愛知両県では「善良の風俗を害するおそれのある容装をし、又はさせないこと」を別に定めており、さらに愛知県では「営業所に善良の風俗を害する絵画、写真その他の物品を掲げ、又は善良の風俗を害する装飾をしないこと」、「営業所でフィルム、ビデオテープ又はビデオディスクにより、善良の風俗を害する映像を供覧し、又は客にこれをさせないこと」などを定めている。

ⓑについてもすべての条例で定められており、例えば山形県では「営業用家屋等で客を就寝又は宿泊させないこと」としている。なお山形、東京、富山、岐阜、和歌山を除く四十二道府県では「旅館業法に規定するホテル営業、旅館営業を除く」として例外規定を定めている。

ⓒについては、大阪、徳島を除く四十五都道府県で定められており、例えば宮城県では「客の求めない飲食物を提供しないこと」としている。

ⓓについては青森、岩手、長野、岐阜、愛知、広島を除く四十一都道府県で定められており、例えば福島県では「営業用家屋において、風俗関連営業を営まないこと」としている。なお長野県ではこの事項は定めていないが、「営業所で、性的好奇心をそそる写真その他の物品で政令で定めるものを販売し、又は貸しつけること」を禁止している。

ⓔについては、三十六都府県で定められており、例えば東京都では「営業中において、営業所の出入口、客室等に施錠をし、又はさせないこと」としている。

以上のほか各条例によりさまざまな「一般遵守事項」が定められている。東京、長野、滋賀、山口、福岡、佐賀、熊本、大分、の八都県では「とばく類似行為その他著しく射幸心をそそるおそれのある行為の禁止」を定めている。なおこの遵守事項については「特別遵守事項」として別に定めているものがかなりある。

また群馬、埼玉、神奈川、静岡、京都、兵庫、の六府県では「営業所以外の場所で営業しないこと」を定めており、広島県では「通常客が自由に出入りし、又は通行するために設けられた通路以外の通路には、立入禁止の表示をするとともに客を立ち入らせないようにすること」を定めている。

宮城、東京、千葉、京都、の四都府県では「営業に係る料金以外の料金を客に請求しないこと」を定めており、さらに北海道では「客から支払いを受ける料金に係る税率を客の見やすい所に表示すること」を定めている。

また北海道、茨城、栃木、長野の四道県では「ショウの類の行為をし、又は客にこれらの行為をさせないこと」を定めている。

京都府では「従業者以外の者の客引行為による客を引き受けないこと」を、また京都、滋賀、和歌山の三府県は「通行人に不安又は迷惑を覚えさ

せるような仕方で呼び込みをしないこと」を定めている。

北海道では「従業者に対し不当な負担をかけないこと」を、また石川、愛知、広島、香川の四県では「従業員に売上競争をさせないこと」を、さらに富山、石川、岡山、広島では「正当な理由がなく従業者から金品を徴収しないこと」をそれぞれ定めている。

このほか静岡県では「営業中正当な理由があって客に面会等を求める者があるときは、その取次ぎを拒み、若しくは出入りを妨げるような行為をし、又はさせないこと」を定めている。なお静岡県では「公安委員会規則」で一般遵守事項を定めることができるようになっているのが特徴的である。

さらに和歌山では「風俗営業者は、条例に掲げる遵守事項を使用人その他の従業者に遵守させなければならない」とする規定を定めている。

射幸心をそそる行為

八号営業者の特別遵守事項

次に「特別遵守事項」についてはすべての条例で規定されており、うち三十五都道府県では「八号営業者」に係わる遵守事項が定められている。なお「八号営業者」の「特別遵守事項」を定めていないのは青森、宮城、秋田、新潟、長野、滋賀、大阪、兵庫、山口、愛媛、宮崎、沖縄の十二府県となっている。

「特別遵守事項」の規定も各条例によりさまざまであるが、比較的多くの条例で定められているのが、ⓐ著しく射幸心をそそる行為などの禁止、ⓑ射幸心をそそる方法での営業禁止、ⓒ客に飲酒させないこと、ⓓ賞品を買い取らせないこと、などである。

ⓐについては、二十六府県で定められており、例えば群馬県では「営業所でと博類似行為その他著しく射幸心をそそるおそれのある行為をし、又は客にこれらの行為をさせないこと」としている。なおこれに関しては先に述べたように「一般遵守事項」として八都県で定められており、実質的には三十四都府県で定められていることになる。

ⓑについては二十三府県で定められており、例えば栃木県では「著しく射幸心をそそるおそれのある方法で営業しないこと」としている。うち鹿児島県では「誇大広宣」などを規定している。

ⓒについては十八都道府県で定められており、例えば岐阜県では「営業所において客に飲酒させないこと」としている。なおこのうち十六都道府県では「飲食店営業の許可に係るものを除く」と例外事項を定めている。

ⓓについては九都県で定められており、例えば長崎県では「客に提供した賞品を買い取らさないこと」としている。また賞品などに関する規定として、広島県では「名義のいかんを問わず賞品以外の物品を提供しないこと」を定め、北海道、東京、岡山、広島の四都道県では「第三者の行為により勝敗又は賞品の得失を定めないこと」を定めている。

このほか北海道では「遊技機の正常な機能を妨げるような装置をしないこと」、「みだりに客の入場若しくは遊技を拒み、又は制限しないこと」などを規定している。

中国地方は"日没時"

18歳未満の年少者入場制限

また法第二十二条第四号に基づき条例で「八号営業」のみに関する「年少者の立ち入り禁止の年齢および時刻」を定めることができるとされている。なお基本的には法律により「十八歳未満者の午後十時以後の立ち入り禁止」が定められており、条例でさらに年少者について時間を指定できることになっている。

これについてはすべての条例で指定されており、三十二都道府県では「十六歳未満者の午後六時以後の立ち入り禁止」を定めている。また同じ十六歳未満者でも岐阜県では「午後五時以後」、青森、秋田、山形、大阪、宮崎、の五府県では「午後七時以後」、愛媛県では「午後八時以後」、さらに鳥取、島根、岡山、広島、山口の中国五県では「日没時以後」においてそれぞれ立ち入りを禁止している。また沖縄県のみは「十八歳未満者の午後八時以後」の立ち入りを禁止している。さらに福島県、長崎県では二段階に分けて指定しており、福島県では「十六歳未満者は午後六時以後、十八歳未満者は午後八時以後」、長崎県では「十三歳未満者は午後五時以後、十六歳未満者は午後六時以後」において立ち入り禁止を定めている。

なお栃木県だけは年少者の立ち入り禁止に関して、「特例の日にあつては適用しない」とする例外規定を定めているのが特徴的である。

施行条例による「遵守事項」の主な規定一覧表

	一般遵守事項											特別遵守事項			
	卑わいな行為その他善良の風俗を害する行為の禁止	営業用家屋での客の宿泊禁止	客の求めない飲食物の提供禁止	営業所内での関連営業の禁止	営業中における客室の施錠禁止	と博類似行為その他著しく射幸心をそそる行為の禁止	営業所以外での営業禁止	表示料金以外の料金請求の禁止	ショウなどの興行の禁止	従業員に売上げ競争をさせない	従業員から金品を徴収しない	と博類似行為その他著しく射幸心をそそる行為の禁止	著しく射幸心をそそる方法での営業禁止	営業所内で客に飲酒をさせない	客に提供した賞品を買い取らせない
北海道	○	◎	○	○					○					◎	
青森	○	◎	○		○										
岩手	○	◎	○		○							○	○		
宮城	○	◎	○	○	○			○							
秋田	○	◎	○	○	○										
山形	○	○	○	○	○							○	○		
福島	○	◎	○	○	○							○	○		
東京	○	○	○	○	○	○		○						◎	○
茨城	○	◎	○	○	○				○					◎	
栃木	○	◎	○	○	○				○			○	○	◎	△
群馬	○	◎	○	○	○		○					○	○		
埼玉	○	◎	○	○	○		○							◎	
千葉	○	◎	○	○	○			○				○	○		
神奈川	○	◎	○	○			○					○		◎	△
新潟	○	◎	○	○	○										
山梨	○	◎	○	○								○	○	○	○
長野	○	◎	○	△	○	○									
静岡	○	◎	○	○	○		○		○			○			
富山	○	○	○	○	○						○	○	○	◎	○
石川	○	◎	○	○	○					○	○	○		◎	
福井	○	◎	○	○	○							○			
岐阜	○	○	○		○							○		○	
愛知	○	◎	○		○					○		○			
三重	○	◎	○	○								○			
滋賀	○	◎	○	○	○	○									
京都	○	◎	○	○	○		○	○				○	○	◎	
大阪	○	◎		○	○										
兵庫	○	◎	○	○	○		○								
奈良	○	◎	○	○	○							○	○	◎	
和歌山	○	○	○	○	○								○		
鳥取	○	◎	○	○	○							○	○		
島根	○	◎	○	○								○	○		
岡山	○	◎	○	○							○	○	○	◎	○
広島	○	◎	○		○					○	○	○	○		○
山口	○	◎	○	○		○									
徳島	○	◎		○								○		◎	
香川	○	◎	○	○						○		○	○		
愛媛	○	◎	○	○											
高知	○	◎	○	○						○		○	○		
福岡	○	◎	○	○	○	○							○		○
佐賀	○	◎	○	○	○	○							○	◎	
長崎	○	◎	○	○	○							○	○	◎	○
熊本	○	◎	○	○	○	○							○	◎	
大分	○	◎	○	○	○	○							○	◎	
宮崎	○	◎	○	○	○										
鹿児島	○	◎	○	○	○							○	○		
沖縄	○	◎	○	○	○										

註 ○印は規定あり、◎は例外事項あり、△印は準じた規定のあるもの

NAOアミューズメントエキスポ85 出展内容

今回のNAOアミューズメント・エキスポの展示内容を、以下に掲載しました。掲載順についてはまず今回から出品可能となったメダルゲーム機などギャンブル機もしくはそれに類するもの、次いでアーケード(TV含む)マシン、乗物機、パーツその他に分類。各分類ごとに出展社を五十音順に配列しました。こうした組み方が最上の方法とは限りませんが、各社の開発意欲とその新製品の動向を知るうえでの一助となれば幸いです。(編集部)

各種メダルゲーム機 許可制に伴ない勢い

カプコンは同社の出品機種のうちメダルゲーム機については、電光点滅式ルーレットによる「カーニバルルーレット」と「フィーバーチャンス」の二機種を展示した。

寿販売は「ブラックジャック」、「花合わせ」、「麻雀」、「スロット」、「ボート」など同社一連のTVメダルゲーム機を同社製アップライト型キャビネットにて出品した。またアミューズメントTVゲーム機をメダルで作動するようにした「メダルアクセプター」も展示。

こまや製作所は同社初のメダルゲーム機を出品。これは同社従来機「ジャンプ・アップ」をメダルゲーム仕様にしデザインも一新の「JPスター」。叩き台を叩いてパックを指定個所までジャンプさせればメダルが払出されるというゲーム内容。同社の尾上道郎営業部長は「子どもの遊びの志向は時代とともにどんどん変化し進んでいるので、これまでのアーケードゲームのコンセプトでは対応しきれないのが現状。その変化についていくために開発方針の転換を図ってみた」としている。

上の写真は多人数用メダルゲーム機を中心に出品したシグマ商事の小間にて。右の機械はルーレットつきのマネープッシャー「キャッシュルーレット」(英国クロムプトン社製)

上の写真はTVメダルゲーム機を中心に展示した寿販売の小間のようす

右の写真は店頭向けの電光点滅式メダルゲーム機を出品した太陽自動機の小間にて

シグマ商事は多人数用の大型メダルゲーム機新製品を中心に、同社一連のTVメダルゲーム機を展示した。大型メダルゲーム機は同社「ザ・ダービー・マークIII」のほかは英国製マネープッシャーゲームで、ルーレットを加味した六人用の「キャッシュルーレット」(クロムプトン社製)、通路に一定枚数のメダルがたまれば大量の払出しも可能な四人用「シルバーストライク」(KWシステムズ社製)、十二人用「ニューペニーフォール」(クロムプトン社製)。TVメダルゲーム機は「スーパー8ウェイズ」、「TVスロット」、「TV21」、「雀宝華」など。

ジャレコはアップライト型TVメダルゲーム機として、マージャンや花札、カードゲームなどを内容としたものを数機種参考出品し、今後メダルゲーム機の開発も進めていくことを示した。

新日本企画は「ダイアモンドダービー」、「花合わせ」、「雀王II」のTVメダルゲーム機三機種を、同社特製アップライト型キャビネットにて披露した。

セガ・エンタープライゼスはVD採用の九人用メダルゲーム機「スーパーダービー」をコンパクトサイズにした六人用「スーパーダービーII」、マネープッシャータイプの「ジャラジャラ」、四種類のTVスロットが楽しめる「ラッキーカーニバル」を披露したほか、「ダンシングハット」も展示。

太陽自動機は電光点滅式ルーレット採用の「ミサイルフィーバー」と「同ミニキャリータイプ」を出品。また同機を設置した店頭ロケのようすを紹介した写真パネルも展示した。

テーカンは順番に盤面のバネを弾き玉を指定の穴に入れていくパチンコ式メダルゲーム機「ダンサー」のほか、「ゴールデンエイトライン」、「ゴールデンマッチ」、「マージャン」など同社TVメダルゲーム機、「スーパーダービーII」(セガ社製)を出品した。

日本物産は同社一連のTVメダルゲーム機に絞っての出品を行なった。出品機種はマージャンを内容とした「ジャンゴレディー」「ナイトギャル」「ナイトバニー」、絵柄合わせゲーム「ハナロイヤル」「フルーツ&バニー」「カントリーガール」、花札が内容の「花ピューター」、「ブラックジャックがゲーム内容の「ロイヤルカード」などで、これらは同社ラウンドテーブル型とアップライト型にて紹介された。同社の手嶋慎吾販売部長は「今後はメダルゲーム機を中心に、それもとくにアップライト型のものに力を入れていきたい」と語っている。

ユーピーエルはTVメダルゲーム機「ザ・マージャン」、「ザ・5ライン」、「花札ガールズ」の三機種を同社開発アップライト型キャビネットにて出品した。

上の写真はセガ・エンタープライゼスが出品したメダルゲーム機のフロア

右の写真はこまや製作所が出品したメダルゲーム機「JPスター」

上の写真はユーピーエルの小間のようす

上の写真はTVメダルゲーム機のみを出品した日本物産

左の写真はメダルゲーム機中心のテーカンの小間にて

AMTVゲーム機でタイトーなど新製品

アイレムはTVゲーム機「ロードランナー・バンゲリング帝国の逆襲」と「スパルタンX」を展示したほか、新日本企画開発の「ハル21」と「キャンパスクロッキー」を参考出品した。またアーケードゲーム機「スパークショット」も出品。同社小間ではプレイヤーから同社あてに送られてきた手紙の一部を大パネルにて紹介し、TVゲーム機とプレイヤーたちの純粋なコミュニケーションの姿をアピールした。同社の高堂良彦専務は「プレイヤーの声を身近に聞くことができる私たち業者が、彼らとゲーム機との結びつきをもっとアピールし、その面からもゲーム機の健全性や社会的意義を訴えていく必要がある。その意味で今回、ゲーム機あるいはゲーム場を不健全だと言う人たちに対して、逆に"なぜ悪いのか"とその理由を問うという趣旨での出展を行なった」と強調した。

思川企画はガンゲーム機「レーザー77」、自転車のペダルを踏みながら前に設置されたTV画面のキャラクターを操作しサイクリングレースを行なうという運動の要素を採り入れたTVゲーム機「ただいま特訓中」(コアランドテクノロジー開発)を出品した。

カトウ製作所はプライズマシン「でるでるロボくん」「ピエロのアニルきょうそう」、アニメを楽しむ「メルヘンでんわぼっくすIII」のほか、参考出品としてTVゲーム機「プラネットプローブ」(ティーアールワイ開発)を展示した。

カプコンではTVゲーム機「エグゼドエグゼス」、孫悟空のキャラクターをキャビネットにしたスロットタイプのプライズマシン「スーパー悟空」、同「D-51」(ひまわり製作所製)、パチンコゲームの同「ジョッキー」(名豊商事製)を出品。このほかVHSビデオ映像を楽しむ「ムービーボックス」(アニメ中心)を展示。

関東娯楽工業の小間では同社が代理店となって発売するクリエイティブテクノロジーセンター(CTC)開発のTVゲームつき自販機「ハーベーデーベー」(HBDB)を紹介した。これはロボットの形で胸の部分に小さな画面が三つあり(14インチブラウン管を三つに区切っている)、左、中央、右の画面の順にボタン操作でゲームが進行していき、全画面をクリアすると景品が出てくるもの。パソコンシステムの開発が主業務のCTCでは同機について「ゲームは三種類あり、そのうち一ゲームは必ずクリアできるようになっている。これを新タイプの自販機としてPRしたい」と語っている。

ケーアンドユー商会はプライズマシン「ジャンプくん」を出品した。

コナミは独自のTVゲーム機のシステム"バブルシステム"を紹介し、同システムによるTVゲーム機「ツインビー」(本紙前号「話題のマシン」参照)を披露するとともに、同システム「ハイパークラッシュ」「ネメシス」のデモンストレーションも行なった。このほかTVゲーム機「イーアルカンフー」を出品した。

こまや製作所では前述のメダルゲーム機のほか、プライズマシンの新作を発表展示した。百人一首の遊びのひとつをテーマとしてボタンで"お姫様"を当てる「坊主めくり」と、同社従来機に改良を加えた「ジャンプアップ」の二機種。

ジャレコはタンク戦がテーマの新TVゲーム機「フィールドコンバット」を発表した。また「ドラゴンバスター」(ナムコ製)、「アイスクライマー」(任天堂製)も展示。

新日本企画はTVゲーム機の新作として、スクロール画面の宇宙戦争ゲーム「ハル21」と、ミレーの絵画"落穂拾い"や水着スタイルのギャルなどの画面を背景にパネルを返していくというメイズゲーム「キャンパスクロッキー」の二機種を発表展示した。

セガ・エンタープライゼスとエスコ貿易は共同小間にて出展を行ない、同小間でのアーケードマシンは次のとおり。TVゲーム機では「ピットフォールII」(米国アクティビジョン社による業務用化許諾品)、「クラウンズゴルフ・イン・ハワイ」(大平技研開発)、宇宙が舞台の宇宙船によるレースアクションゲーム機「スプレンダーブラスト」(アルファ電子開発)、そしてスポーツ性のあるTVゲーム機「ただいま特訓中」(コアランドテクノロジー開発)を出品。このほかフリッパー「ニューウェーブ」(西独NSMローエン社製)を参考出品。またプライズマシン「ディガトロン」、「ディガマート」、ぬいぐるみや玩具などを景品とした「イーグルキ

ヤッチャー」をそれぞれ出品した。

タイトーは参考出品を含めて計六機種のTVゲーム機とともに、その他アーケードゲーム機などを披露した。TVゲーム機では侍の戦いをテーマとした「サムライ日本一」、前人未踏の地を探険する「ゆけゆけ川口君」、地上と空中での戦いが内容の「メタルソルジャーアイザック2」、いろいろなフィーチャーが加わったインベーダーゲーム「リターン・オブ・ザ・インベーダーズ」のほか、参考出品として二個のブラウン管とハーフミラーを使用し注目を集めた3D効果満点の戦争ゲーム機「ワイバーンF−0」、揺動するキャビネットを採用した米国エキシディ社製宇宙戦争ゲーム機「バーチゴー」（完成品）を披露した。その他アーケードゲーム機では"コロンビア号"の飛行をテーマとしたフリッパー「スペースシャトル」（米国ウィリアムズ社製）、フットボールが内容のフリッパー「タッチダウン」（米国プリミア社製）、ボクシングゲーム機「スマックス」（関西精機製）、プライズマシン「キャンディぱっくん」を出品。またアイキャッチャーとして氷の上でペンギンが踊る「タキシードサム」が披露され、これはNAOショーで唯一出品されたAMロボットとなった。

ティーアールワイは宇宙戦争が内容のオリジナルTVゲーム機「プラネットプローブ」を出品。また日立のパソコン「MB−H2」を使用し、パソコン用ゲームソフトも紹介した。

テーカンでは前述のメダルゲーム機が中心の出展となったが、このほか同社TVゲーム機「プレアデス」以降「スターフォース」までの六機種と、TVモニターによるプライズマシン「テレピカ」「テレガチャ」の二機種を出品した。

トーゴはアーケードゲーム機について三機種の新製品を発表した。「モグラたたき」のデザインを一新したもので、帽子とサングラスをつけたギャングモグラを叩いていく「モギー＆モグリン」、ゴリラのウェイトリフティングが内容のプライズマシン「がんばれゴリくん」、買い物がテーマの電光点滅式プライズマシン「ピーターくんのおかいもの」を披露。またプライズマシン「くるくる絵合わせ」も展示した。

日本ゲームはTVゲーム機「チャイニーズヒーロー」と、左右にスクロールする画面による宇宙戦争ゲームの試作機（名称未定）のほか、デジタル表示された数字を基本にしてボタンを押していくゲーム「タクテシアン」（米国デジタルコントロールズ社製）を出品した。

上の写真は独自のバブルシステムを披露したコナミの小間にて

右の写真はアーケードゲーム機の新製品を豊富に出品したタイトーの小間にて

上の写真はジャレコの小間のようす

上の写真は健全娯楽を訴えたアイレムの小間

下はペダルとボタン操作による自転車レースのTVゲーム機「ただいま特訓中」（コアラランドテクノロジー開発）

左は関東娯楽工業が紹介したTVゲーム付自販機「HBDB」（CTC開発）

左はセガ社とエスコ貿易の共同小間にて

上の写真はTVゲーム新作2種を発表した新日本企画

右の写真はカプコンの小間のようす

右の写真はTRYの小間にて

左の写真はTVゲームの試作機を出品した日本ゲーム

友栄が披露したアーケードゲーム機「アームロボくん」

同社の遠藤総務部長は「TVゲームは今後、マザーボードがあればあとはサブボードやROM、なんらかのカセットなどの交換で新ゲームにする方式が主流になっていくのではないか。その見通しに立って当社ではROM交換方式を開発中」としており、また同部長は「この方式が主流になれば、欧米で問題となっている中古基板が新品より先に出ることへのひとつの対策ともなる」と語っている。

ユーピーエルは同社TVゲーム機の新作として、フリッパーが内容の「スーパーウイング」、碁盤目のようなブロックが並んだ画面で敵を倒していく「レーダース5」を出品したほか、「忍者くん」も展示。またガンゲーム機「レーザー77」（思川企画開発）、プライズマシン「ぱっくんらんど」「ラッキークレーン」を出品した。

友栄はロボットの胴体、腕、指の三つの部分をレバーで操作しブロックを拾って積み重ねていくアーケードゲーム機「アームロボくん」、電光点滅式野球ゲーム「グレートスラッガー」、クレーン機「ニュースペースクレーン」（三共製）、綿菓子の自販機「ピエロの綿菓子機」のほか、同社一連の従来プライズマシンを出品した。

以上のほか占い機として、アイレムから過去、現在、未来を占う「運命の輪」、大森電気からルーレットゲーム付きの卓上型コンピューター星占い「コンステラ」、寿販売から血液型により二十二項目の診断を行なう「チェックハート」の三機種が出品された。

春シーズンに向けてホープはじめ新製品

さて（小型）乗物機の新分野では計十一機種の新製品が発表された。まず朝日エンジニアリングの小間ではコアラの親子がゴンドラを揺りかごのように押したり引いたりする定置型乗物機「スイングコアラ」（PICが総発売元）、他車をスピンさせたり標的を狙撃できるレーザー光線銃がセットされたバッテリーカー「ジュピターセブン」（思川企画が総発売元）の新作二機種を出品した。

思川企画は前述のバッテリーカー「ジュピターセブン」を数台、同社小間内で走らせ光線銃で他車がスピンするさまを実演した。

カトウ製作所はボタンで三百六十度回転もできるバッテリーカー「わくわくUFO」と「ぐるぐるロボ」を出品。

関東娯楽工業はレール走行式乗物機の従来機の改良版「ニューウェスタンロコモティヴ」（三百五十㍉ゲージ）、宇宙カーをモデルとしたスマートなデザインの二人乗りバッテリーカー「スペースコマンド」「スペースファイター」の二種類、計三機種の乗物機を出品。

タイガー娯楽はいろいろな特殊自転車を展示した。高さ三㍍五十㌢もあり二人でペダルを踏む「日本一サイクル」（同機は販売されずリースのみ）、どちらが前か後ろかわかりにくい「バックハンドルサイクル」、家族六人が乗れる「ファミリーサイクル」、四人が同時にペダルを踏んで進む「フォアサイクル」、両手でこぐ自転車「トライサイクル」のほか、「サイクルボート」、「アメンボー自転車」、「ダルマサイクル」、「フリフリサイクル」、「レーサーサイクル」など。

トーゴでは乗物機の新作として、三十五㌢という最小回転半径を誇るため小さなスペースでも設置可能な二人乗りのレール走行式乗物機「レール走行ロボ」を発表。また定置型乗物機「にこぷんボート」、「ブレーメンの音楽隊」、「森のコアラ」、「ダンプ」、「メルヘン木馬」、「ミルキーコアラ」、バッテリー式走行乗物機「メロディーペット」などを出品した。

土佐貿易は回転と左右前後進が座席左右のレバ

右はホープの定置回転式乗物機「コアラメリー」

上の写真は新作乗物機7機種を発表し開発意欲を示したホープの小間

上の乗物機は朝日エンジニアリング製「スペースセブン」、同機は同社（下の写真）と思川企画（右上の写真）から披露された

上はトーゴの小間のようす。下は同社「レール走行ロボ」

右は関東娯楽工業の小間にて

左はカトウ製作所の小間。下はタイガー娯楽の小間のようす

右は土佐貿易の小間のようす

ー操作で自由に行なうことができ、ぶつけ合ったりして楽しむバッテリーカー「ディスコスクーター」(西独エレクトロ・モービルテクニック社製)を出品した。なお同社は健康・スポーツ機器の輸出を主たる業務としているが、同社東京事務所の正木穣所長は「良いアミューズメントマシンがあれば今後も扱っていきたい」としている。

ホープは七機種の乗物機の新作を発表し開発意欲を示した。まず定置型乗物機ではキャタピラで進むロボットをデザインした「マシンロボ」、二階建てバスがモデルの「デラックスバス」、怪獣スタイルの「ネッシー」、定置回転式乗物機では宝島探険がテーマの「ちびっこ探険隊」、丸太にまたがったコアラが回る「コアラメリー」、バッテリーカーでは宇宙警察がテーマの「スペースパトカー」、特殊な消防を任務とする「化学消防車」。このほか定置型乗物機「ロボ太くん」、バッテリーカー「チビッコサイドカー」も出品した。

ゲーム機専用各種部品類、カラオケなど

パーツ関係ではまず旭精工は、従来の1ウェイセレクターと同サイズで2ウェイにしたコンパクトなドロップタイプセレクター「AD－85W」を新製品としてアピールした。このほかコインセレクター〝MASCOシリーズ〟、〝720・730シリーズ〟、〝ドアータイプ〟、〝エレクトロニクスタイプ〟やホッパー、スタンプディスペンサーなど出品し、硬貨メカニズムの充実ぶりを示した。

三和電子は各種のジョイスティックレバー、レバーボール、コネクター、操作盤などの部品類、TVゲーム機のテーブル型およびミニアップライト型キャビネットなどを出品。なお部品類については即売が行なわれた。

セイミツは操作盤を中心に部品類を出品。また二種のTVゲーム(宇宙戦争と麻雀など)を一つのキャビネットに組込みゲーム選択および操作が一つの操作盤でできる「CT－2B」を紹介。これは同社では「風営規制で昼と夜の客層が異なってくることに対する対応策になる」としている。

キャビネットでは大森電気が汎用性のあるメダルゲーム機用アップライト型キャビネットを出品。同社の村上栄司営業部長は「アーケードものが低迷気味の現在、メダルゲーム機の見直し傾向が出てきている。また新風営法の対象外となった占い機も今後期待される。その意味で今回はメダルゲーム機(キャビネット)と占い機に絞った」としている。

ケーアンドユー商会は新しいデザインで明るいイメージのTVゲーム機キャビネット「パンダ」を披露した。これは18インチモニターを斜めにセットし2人同時プレイもできるもの。同社の林謙二社長は同キャビネットについて「TVゲーム機自体の明るいイメージづくりを目指したもので、とくにSCロケ向けに開発した」と語っている。

ジャレコではTVゲーム機の天板両端が折りたたみ式でサイズを変えられる「チェンジアップ筐体」を紹介した。

両替機ではグローリー商事が紙幣両替機「ER－20」や硬貨両替機、硬貨と紙幣の計算機などを出品。またセガ・エンタープライゼスは「DP－15－1」など、太陽自動機が日野電子製のそれぞれ両替機を出品。シグマ商事はナカヤシ製の紙幣・硬貨計算機を紹介。

このほか思川企画が手動式自販機「ハンドラー」(ユニ機器開発)を出品した。同社の春山清弘事業課長は「乗物機から自販機、またその他分野の機械でも今後は多角的に扱っていく方針」としている。トーケンはメダルゲーム機用メダルやキーホルダーなどとともに、メダル研磨機「コインクリーネ」を出品。東京日光堂はコンパクトディスクによるカラオケをメーンに、各種カラオケ周辺機器などを展示した。同社の大田原穣部長は「カラオケ市場は飽和状態と言われているが、技術進歩による新システムに入替えるという買替え市場がある。また新風営法による影響を心配する向きもあるが、これは営業時間規制の影響はほとんどないと思う。ただ接待の面が少し気がかりだ」としている。

以上のほか二組合、二協会の出展があり、日本娯楽機械オペレーター㈿(JOU)は同組合扱いの各種景品類を、中部遊園事業㈿はテーブル型TVゲーム機用「遮光カバー」を出品し、東京都アミューズメントマシンオペレーター協会(たもあ)は同協会機関紙「たもあニュース」を、日本SC遊園協会は同協会への入会案内書を、それぞれ配布した。

上の写真は硬貨システムを充実させた旭精工の小間にて

左はセイミツの小間のようす

上の写真はトーケンの小間にて

下の写真は新型キャビネットを紹介したケーアンドユー

上の写真は各種部品を展示した三和電子の小間

各種景品類など展示のJOUの小間

メダルゲーム機筐体を紹介した大森電気

両替機をアピールしたグローリー商事の小間

スターン社再建せず

会社を整理し、新会社カリン社が資産買取り

昨年七月倒産した米国のTVゲームメーカー、スターン・エレクトロニクス社（本社イリノイ州エルクグローブ、ゲイリー・スターン社長）が、このほど完全に業務を停止したことを明らかにした。法律上の会社は残るが、会社清算については筆頭債権者であるコンチネンタル銀行らの承諾を得た、とゲイリー・スターン氏は語っており、これでゲーム機メーカーとしてのスターン社は今後なくなることになった。

同社は昨年七月五日、和議申請（チャプター・イレブン）を行ない事実上の倒産を明らかにしたが、その後も業務を続行して同社資産の売却が債権者によって検討されていたが、それも行き詰ったことになる。なお、同社の工場を利用してきたキトコ社（ジョー・ロビンズ副社長）は別の工場へ移すことになる。

ゲイリー・スターン氏はスターン社をこうして閉鎖するが、一方で新会社、カリン・エレクトロニクス社を設立し、電話業界に参入することを明らかにしている。なおスターン社の子会社URL社も同様に閉鎖されている。これらスターン／URL社の工場などの資産は新会社によって買いとられることになるもようである。カリン・エレクトロニクス社のAM業界への再参入の可能性は今のところないが、皆無ではないとのこと。

スターン社はゲイリー・スターン氏と故サム・スターン氏（昨年十一月死亡）により一九七六年設立され、同年末にシカゴ・ダイナミック・インダストリー社のシカゴコイン社を買いとり、フリッパーメーカーを引き継いだ形でスタートした。八〇年夏にはTVゲーム機分野に参入し、米国の有力メーカーのひとつに数えられた。同社のフリッパー「フライト2000」「ドラキュラ」など、TVゲーム機「スクランブル」「ツタンカーム」（コナミ工業による許諾品）など数多くのヒット機を送り出しており、レーザーTVゲーム機も手がけた。しかしフリッパーの不振が長引いた上、ここ数年間TVゲーム機分野がいよいよ低迷してきたため、今回の措置になったもの。

フォーレインエキスポ84

間接税の重圧で

フランスのAM業界に大打撃

フランス最大のAMショー、フォーレインエキスポ84が十二月十一日から四日間、パリ郊外のルブールジェで開かれ、遊園施設関係とAMゲーム機関係など広範囲にわたるAM機のオンパレードとなったが、政府と地方自治体による重税のためオペレーターたちは大変苦しい状況に追いつめられているとのことで、ショーの勢いも今ひとつということらしい。

ヨーロッパの国際的AMショーの中でも、英国のATEI、西ドイツのIMAに続くほどの内容を持つ伝統的なフランスのショーではあるが、今回のフォーレインエキスポはとくに落ち込みの激しいものになったようだ。一時ギャンブル機が税法上認められ活況を呈していたが、八三年六月以来一切のギャンブル機のオペレートが禁止されており、AMゲーム機のみでやってきたわけだが、それでもオペレートに際しての事業税が重くのしかかることになり、オペレーターは苦しい状況にあるとのこと。昨年から今年にかけて、これら税率をさらにアップするとの情報がフォーレインエキスポの会場の中に流れ、オペレーターは悲鳴をあげたと言われている。

情報筋によると、地方税の課税が最も重く、キャッシュボックスに入ったお金の一八%が付加価値税（AVT）として徴収される、とのこと。およそ日本では〝大型間接税〟についてAM業界としてどうなるか考えたことのある人は少ないと思われるが（日本ではヨーロッパ型を検討中だと言われている）、実際にAVTが課税されるとその厳しさに打ちふるえると言われている。フランスでは、まさにその状況が業界全般を死に近い苦しみに陥らせているわけでとてもショーは華やかなムードではなかった、とされている。

フォーレインエキスポでのゲーム機関係の主役は、もっぱらバリー・フランス社（サンタマリア会長）で、バリー社関連ゲーム機のほか、アタリ社など他社製品もまとめて出品した。とくにこのショーではアタリ社製システム1「マーブル・マッドネス」が注目されたとのこと。ルネ・ピエール社はデータイースト製「カラテ・チャンプ（空手道）」で人気を博したほか、一連のコナミ工業製品を出品した。ロンドンに本拠を持つセガ・ヨーロッパ社（ビック・レズリー代表）はセガ社製品などを出品した。また、フランスで数少ないフリッパーメーカーとなったジューテル社は、新製品「パピヨン」を発表した。これらAMゲーム機のほか、キディライド、大型遊園施設（その多くは移動遊園地用である）など多彩な出品となった。しかし、状況が前述のような暗いものだけにショー会場はしめり勝ちで、なんとも話にならない催しになったとのことだ。

欧州遊園展「アクチュエル85」に

日邦産業が出展

朝日エンジニアも協力、成果あげる

ヨーロッパの遊園地関連機器ショー「ショー・アクチュエル85」が、一月十四日から四日間、西独ミュンヘンで開かれ、これに二十五ヵ国から百六十一社が出展した。

このショーは昨年の「インターショー84」（ハンブルグ）に続くもので、特に今回は秋の催し「オクトーバーフェスト」が第百七十五回を迎える記念の年とあって、ミュンヘンでの〝冬の国際AMパークショー〟となった。

日本からは日邦産業が出展、朝日エンジニアリングがこれに協力した。出品機は、日邦のバッテリーカー、クルーザーIIなどと朝日のコントローラーなど。いずれも好評で、オランダのギリーズ・インターナショナル社が代理店に決まるなど成果を収めている。

消息筋によると主な出展社は、オランダのペコマ社、スイスのインタミン社、シュワルツコフ社、西独フス社、モンデール社、イタリアのサルトリ社、ザンペルラ社など。大型遊園施設から、キディライド、AMロボット、ゲーム機など多彩な出品ぶりだったとのこと。

宙返りコースター開発など国際的メーカーの

アロー・フス社倒産

宙返りコースターを開発した世界的な遊園施設メーカー、米国のアロー・フス社（ユタ州クリアフィールド、クラウス・フス会長）が昨年十一月二十一日に事実上倒産していることが、このほど明らかとなった。同社は西ドイツ資本の下にあった国際的企業であるが、西ドイツと米国で再建策が講じられつつあるとされている。

米国アロー・フス社は米アロー社が西独フス社に買収されたもの。西独フス社はハイナー・ビルヘルム・フス社（本社ブレーメン）を製造部門とし、販売部門としてスイスにフス・トレーディン社（本社チューリッヒ）、米国に同支社（ニューオーリンズ）を持っており、米国アロー・フス社は西独フス社の下にあって、各種遊園施設の開発、製造を行なってきている。これらは「フス社グループ」として呼ばれてきた。

経営破たんの原因は昨年夏ニューオーリンズで開かれた〝河川万国博〟の失敗によるもの、とされている。伝えられるところによると、まず十月二十八日に西独フス社が和議申請を提出し、続いて十一月二十一日に米国アロー・フス社も和議申請（チャプターイレブン）を提出、事実上倒産した。これらの事実は長期間伏せられたままで、このほど明らかになったことになる。

結局、西独フス社は別の投資家によって買いとられ、フス・マシネンファブリック社（ヴィンターフェルド氏とバインシェク氏の共同社長）として再生することになった。また同社は米国市場に対して、フスUSサービス社を設け、同社製品の販売業務を行なうとのこと。一方の米国アロー・フス社は、結局西独フス社の手から離れ、独自に再建策をとりつつあるが、業務上はフス社と提携したまま進めるもようである。

話題のマシン

鎖ガマ、矢、手裏剣などをかわし

悪い城主を征伐

タイトーから「サムライ日本一」基板

侍をテーマとしたTVゲーム機「サムライ日本一」が、㈱タイトー（本社東京、中西昭雄社長）から二月二十七日発売となった。

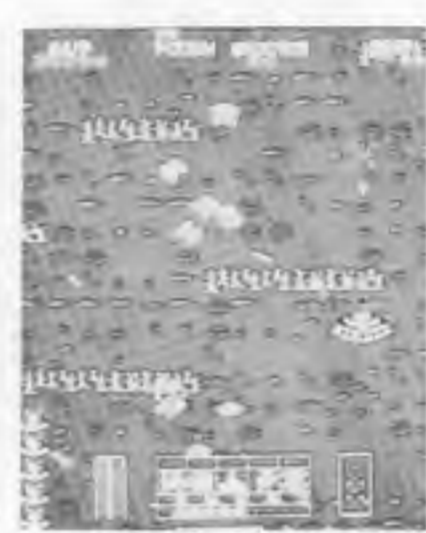
これは左右レバーで侍を操作しボタンで剣を使い、襲ってくる敵の侍や忍者などを倒していくというゲーム。全部で四パターンある。

第一パターンは画面左右両端から次々と出現して迫ってくる敵の侍を切り倒していくもので、タイマー内に一定人数を倒すとクリア。第二パターンはトラ、弓矢や短刀を投げてくる〝カラス天狗〟など、第三パターンは手裏剣を投げる忍者（灰色の忍者は倒せない）が出現。最後は城の場面で鎖ガマの武者、なぎなたを持つ腰元などが現われ、悪い殿様を倒すと〝日本一〟となる。なお途中で上部から襲ってくる〝パワーカラス〟をやっつけると敵の弓矢や短刀、手裏剣がきかなくなる。タイムオーバーか敵にやられるとアウト。三人アウトでゲーム終了。基板販売のみで定価二十五万円。

サムライ日本一

敵を捕え味方にできる地上戦

5種の兵器選択

ジャレコから「コンバット」基板

陸上戦をテーマとしたTVゲーム機「フィールドコンバット」が、㈱ジャレコ（本社東京、金沢義秋社長）から三月十五日発売となる。

これは円形の司令戦車を操作し、主に戦車と戦うゲームで、スクロール画面でどんどん進んでいく。全部で八パターンあり、各パターンごとに設定された武器を選択でき、また敵を捕えて味方にすることもできるのが特徴。

前方に表示されている照準に合わせてミサイルを発射して戦車を撃破、また敵の攻撃に対しバリアを張って防ぎながら進攻していく。敵は戦車のほかヘリコプター（ミサイルで撃破できない）、人間の軍隊がいる。設定された兵器は戦車やヘリコプターなど五種類（画面下に表示）あり、レバーで選びボタンを押すと、その兵器が出てきて勝手に動いて敵を倒してくれる。これは敵の種類に合わせて出すと効果的で、例えば敵のヘリが現われた時こちらもヘリを出すと、ヘリ同士が戦うので司令戦車への敵ヘリの攻撃がなくなる。また常時装備している〝キャプチャービーム〟で敵戦車などを捕えることができ、味方の軍隊を増強できる。後半になるほど敵の攻撃は激しくなるので、前半でできるだけ多く敵を捕えておくとよい。一定回数撃破されるとゲーム終了。基板販売のみで定価十四万八千円。

フィールドコンバット

ギャングをやっつけ4段階評価

新モグラたたき

トーゴから「モギー&モグリン」

モグラ叩きゲーム「モギー&モグリン」が、㈱トーゴ（本社東京、山田敦夫社長）から二月中旬発売となっている。

これは同社従来機をデザイン的に一新したもので、米国禁酒法時代を背景に〝モギー〟と〝モグリン〟の恋路を邪魔するサングラスをかけたギャングモグラをやっつける（叩く）というテーマを設定。一回六十秒間で叩いた数が表示され、四段階の評価がある。従来機より穴と穴の間が広がり面白さを増している。BGM、ファンファーレつき。定価八十八万円。

モギー&モグリン

ホープから新バッテリーカー2種

未来をイメージ

バッテリーカー「化学消防車」と「スペースパトカー」が、㈱ホープ（本社工場川崎市、小野定良社長）から二月中旬発売となっている。

両機種とも未来をイメージしたもので、「化学消防車」は空を飛んで現場に向かい化学的消化活動をする消防車、「スペースパトカー」は空中を飛行しながらパトロール活動を行なうパトカーなのでタイヤのないデザイン。いずれもホーン（ハンドル部のボタン）と走行音が鳴り、一人乗りで定価二十九万円。

スペースパトカー

化学消防車

話題のマシン

地球から惑星へ宇宙でのレース

立体感ある画像

アルファから「スプレンダー・ブラスト」基板

宇宙空間でのスピードレースを内容としたTVゲーム機「スプレンダー・ブラスト」が、アルファ電子㈱（本社埼玉県上尾市、新井一夫社長）から三月八日発売となる。

これはロケットを2方向レバーとスピードアップ・ダウンボタン、ミサイルボタンにて操作し、十数台のロケットとのレース展開を行なうもの。立体感のある画像が上下にスクロールし、ゴール到着で一レース終了となる。レースは全部で六種類（六パターン）ある。

各レースとも前半は地上数㌔での飛行、後半は宇宙空間飛行となっており、他のロケットや障害物（隕石、タワー、岩、火など）に衝突しないよう進んでいく。途中でミサイルマーク上を通過すると、障害物のみ破壊可能なミサイルが五発装備され、また〝パーツトランスポート〟の真ん中を通過すると障害物をはね返すシールド、スピードアップのターボ、左右移動が速くなるノズルの三種類のパーツが装備される。画面左上に表示のエネルギーが少なくなると警報が鳴り、なくなればゲーム終了となるが、エネルギータンク上の通過、またはゴールにより補給される。なおレースは地球から月、月から太陽、太陽からアンドロメダ、オリオン、〝アルファ星〟へと続く。基板販売のみでOP価格十四万八千円。なおハンドル操作のコックピット用基板も三月下旬発売予定。

スプレンダー・ブラスト

お姫様を選ぶプライズマシン

百人一首の遊び

こまやから「坊主めくり」

プライズマシン「坊主めくり」が、㈲こまや製作所（本社神戸市、田中弘社長）から二月下旬発売となった。

これは百人一首による遊びのひとつ〝坊主めくり〟を採用したもので、隠されたカードの中からお姫様を当てるゲーム。矢印が三つヨコに並んでおり、矢印ランプがランダムに点灯するのをボタンで止めると、一カ所の矢印が点灯。次に三カ所から坊主かお姫様のカードが下部から飛び出してきて、点灯矢印の部分にお姫様がいれば当たりとなり、盤面のお姫様の絵にランプがつく。これを四回繰り返して三回当たれば景品が払出される。定価三十二万円。

坊主めくり

無敵に変身する戦闘機を操作し

2人で同時攻撃

新日本企画から「ハル21」基板

宇宙戦争をテーマとしたTVゲーム機「ハル21」が、㈱新日本企画（本社大阪、川崎英吉社長）から三月上旬発売となった。

これは二人同時プレイもできるもので、操作はレバーと発射ボタン、爆弾投下ボタンで行なう。画面が上下にスクロールする中、一人用では宇宙戦闘機〝CLAIN〟を操作、二人用では2プレイヤー側が同〝HAL〟を操作し二人が協力して、次々と襲ってくる敵機や地上基地などを撃破していくというゲーム。

敵機には最大の破壊力を持つ〝V1戦闘機〟、トリッキーな動きをする戦闘機〝バッカス〟などがあり、また浮遊爆弾のような〝メガ・クォーツ〟も出現する。さらに途中で強力な〝合体戦艦〟が現われるが、これを破壊するにはまずレーザーを命中させると合体していたパーツが飛び散り、中心部が見えたらそこを一気に攻撃する。なお画面上にランダムにⒺというマークが表示されるので、これを取っていき合計五つになるとパワーアップして無敵となる。この時が反撃のチャンス。爆弾の使用は戦闘機の前方に照準が表示されており、この照準内にターゲットが入った瞬間にボタンを押すと破壊できる。戦闘機が三回アウトでゲーム終了だが、一定得点以上で一機が追加される。基板販売のみでOP価格十四万八千円。

ハル 21

エアー遊具20弾

ダックマンから「くまさん」

㈱大阪テント製エアークッション遊具「ぼく…くまさん」が、㈱ダックマン（本社大阪、友永陽一郎社長）から発売となっている。

これは同社〝エアージャンボン〟シリーズ第二十弾で、中に入って飛んだり跳ねたりして遊ぶもの。特殊樹脂加工が施され、防水、汚れ防止、寒冷時の硬化防止、防災性にすぐれ、とくに底部は特殊ゴム材の使用で耐久性がある。同社では「子どもたちになじみの深い動物のキャラクターを順次採用していく」としている。送風機、シートなどのセット定価二百八十万円。

ぼく…くまさん

まるちかめらあいず MULTI CAMERA EYES No.37

鎌先英太郎

ゲームマシン

どうでもよいことだとおもいながらも気になってしようがないということがある。

さっきから家の裏の神社へかけての吹きさらしの斜面に猫が一匹じっとうずくまったままで耳だけは絶えずぴくぴくと動かしている。

野良猫であるのだが、家の子になついてしまい夜は子供の部屋で一緒に寝る癖がついてしまい、朝昼も近くを徘徊している間に時時わが家に立ち寄る。

数日前から子供は修学旅行に出かけた。子供がいない故かどうか、その頃からこの野良猫はひどく体調をくずしてしまいたべものを受けつけなくなり、日に日に痩せ衰えて頭ばかりが大きいような感じになってしまったのだ。

朝食時に外でないているのであげてやりたべものをやったが顔をそむけて厭がっていた。

丁度誰も留守になるので猫をどうしたものかと思案していたら猫は自分から外へ出たそうな素振りをしめすのでこれ幸いとばかり出してやったのだがよろけながら出て行く後姿を見て何か非情な悪いことをしたような気がして心が傷んだ。

気掛りなので後の部屋の障子をあけて窓から見ていると、神社のフェンスの下をくぐったところで猫は全身に痙攣をおこして嘔吐していた。

二階の書斎で新聞を見ながらも気になるので時をおいては神社の坂の方をみると猫はずっと同じ状態のままである。

そのうち猫がいなくなってほっとするのと同時にあんな元気がない状態ではまた他の猫や犬に噛まれてひどい怪我をするのではなかろうかと心配になる。雄猫はしょっちゅうひどい怪我をするものなのである。

今日は月曜日で日刊紙に読書欄が載っている。

あまり好きな言い方ではないのだが、三島由紀夫が言っていた「時代と一緒に寝る」ようになってからもう二十年ぐらい経ってしまった。

最初は自分好みの寝方をしていたのだがそのうち時代の雑音にも興味をもちはじめというかノイズにも寛大になってあるいは鈍感になって読書紙や日刊紙の読書欄を見て面白そうな本があると食指をのばさずにはいられなくなってしまった。

小さい記事にも偶偶心和むほっとユーモアを感じさせるものがあり読んでよかったとおもうことがある。

《みすず》一月号に載っている辻まことの遺文抄に

昨夜みた夢の断片。

1、プルシァン・ブルーを基色にした画を描いている場面

2、ハッピー・ストライクというウィスキーを飲む(バカにうまかった)場面

3、もとテニスの選手だったというストリッパーがスカートをはくのをはずかしがる場面

——主人なしのラプソディ・デ・スプリのオッチョコチョイがよんでいる。

というフラグメントがあり、特に2のハッピーストライクという固有名詞、戦後アメリカ兵が誰も吸っていたラッキーストライクのラッキーがハッピーにすりかえられているおかしさと(バカにうまかった)という追い討ちがきいていているのがおかしさをこみあげさせてくれた。

《青春と読書》三月号には生島治郎の《片翼だけの天使》の書評を長部日出雄が書いていて、これもたくまずしてユーモアに溢れているいい文章であった。本人が真面目な振りをすればするほど周囲の人人にはおかしさがこみあげてくるというユーモアの中でも本質にせまる性質のユーモアであった。

長部日出雄氏は最後を以下のようにしめくくっていた。この真面目さ。

・——これは現代の神話といっていい。きっと長く生命を保って、読み継がれていく小説になるのではないだろうか——

今流行の言葉で言えばたかが小説されど小説なのである。

読売新聞の読書欄はそのジューシーな選択とそのスピーディーな面においては朝日、毎日に今や完全に差をつけてしまったようだ。

朝日の読書欄では誰かが書評を書くことになり持ち帰ったという記事を載せている同日の許書欄で読売は既に立派な書評を掲載していた。

《雪片曲線論》—中沢新一—である。

ぬきがきではあるが

——『ヒューマン・サイエンス』(中山書店)を読んで新しく柔軟な非線形思考の必要を説く人たちの文章の多くが、旧来通りの硬い線的なスタイルなので一種索然たる思いにとらわれた。

そのあとに《雪片曲線論》を読んで、砂漠でオアシスの水音を聞く思いがした。この書物も、これまでの硬い思考の科学に代わるべき新しい思考の必要と可能性を論じたものだが、書き方そのものが、発想と論理展開そのものが、区画整理的でなく、みずみずしい生気の森の入り組んだ小道を気のむくままにのびやかにさまよい歩くような快さをもっている。

基本的には一昨年末に出て評判になった『チベットのモーツァルト』で主張されたことの展開だが、この新しい書物の特色は、日常的な諸事象と結びつけながら、より具体的に身近な形で著者の思考が展開されていることである。

評者が最もおもしろかったのはビデオゲームを論じた章で、有名な「ゼビウス」に至ってビデオゲームは単なる遊戯機械から、「宇宙の意識そのものとの新しい対話」にまで到達したと著者は言う。

《雪片曲線》を読むと〝自然〟とか〝思考〟とか、これまで自明と思われてきた基本的なことがいかに謎めいて、怪物的で、しかも無限の力を秘めたしなやかに楽しいものか改めて目を開かれる思いをするはずである。刺激的でそして楽しい数少ない書物だ——

実はこの《雪片曲線》の中に本紙《ゲームマシン》からの引用がある。

〈続〉

MARCH 15

Game Machine's Best Hit Games 25

■テーブル型ＴＶゲーム機 (TABLE VIDEOS)

今回	前回	機種名（メーカー名） MODEL (MANUFACTURER)	評価 (RATING)
❶	—	サムライ日本一（タイトー） Samurai Nippon Ichi (Taito)	9.00
❷	7	ロードランナー・バンゲリング帝国の逆襲（アイレム） Lode Runner-The Bungeling Strikes Back (Irem)	7.20
3	3	ドラゴンバスター（ナムコ） Dragon Buster (Namco)	7.00
4	4	ナイトギャル（日本物産） Night Gal* (Nichibutsu)	6.73
5	2	イー・アル・カンフー（コナミ） Yie Ar Kung-Fu (Konami)	6.61
6	1	ピットフォールII（セガ社） Pitfall II (Sega)	6.56
❼	9	１９４２（カプコン） 1942 (Capcom)	6.54
8	5	スパルタンＸ（アイレム） Kung Fu Master (Irem)	6.15
9	8	クラウンズゴルフ・イン・ハワイ（エスコ貿易） Crowns Golf in Hawaii (Esco)	5.85
10	6	リバレーション（データイースト） Liberation (Data East)	5.83
⓫	—	ジャンゴ・レディー（日本物産） Jangou Lady* (Nichibutsu)	5.60
12	11	ロードファイター（コナミ） Road Fighter (Konami)	5.17
13	10	エキサイトバイク（任天堂） Excite Bike (Nintendo)	4.77
13	13	パックランド（ナムコ） Pac-Land (Namco)	4.77
⓯	—	エグゼド　エグゼス（カプコン） Exed Exes (Capcom)	4.71
⓯	36	オセロ（フジワラ） Othello (Fujiwara)	4.71
⓱	20	ピンポ（ジャレコ） Pinbo (Jaleco)	4.67
18	16	ロードランナー（アイレム） Lode Runner (Irem)	4.57
19	15	忍者くん（タイトー） Ninja Kun (Taito)	4.54
20	18	クラウンズゴルフ（エスコ貿易） Crowns Golf (Esco)	4.45
21	12	雀王（新日本企画） Jang-oh* (SNK)	4.22
㉒	31	ゼビウス（ナムコ） Xevious (Namco)	4.21
㉓	32	ギャラガ（ナムコ） Galaga (Namco)	4.19
㉔	34	ジャイロダイン（タイトー） Gyrodine (Taito)	4.11
25	23	エクイテス（アルファ電子／セガ社） Equites (Alpha/Sega)	4.09

* The Traditional Japanese Games

評価 (RATING)　調査ロケーションの設置機種を売上げと人気度から見たランク付けで、各オペレーターの判断によるデータを集計、その平均値を示したもの　数字の意味は10：これ以上ない爆発的な人気と売上げ、9：すばらしい人気と売上げ、8：大変いい人気と売上げ、7：いい人気と売上げ、6：まあいい人気と売上げ、5：平均的なもの、4：平均以下（以下省略）

■アップライト、コックピット型ＴＶゲーム機 (UPRIGHT/COCKPIT VIDEOS)

今回	前回	機種名（メーカー名） MODEL (MANUFACTURER)	評価 (RATING)
1	1	ＴＸ－１　Ｖ８（辰巳電子） TX-1 V8 (Tatsumi)	6.80
2	2	ＴＸ－１（辰巳電子） TX-1 (Tatsumi)	5.67
❸	5	ジェダイの復讐（アタリ） Return of The Jedi (Atari)	5.67
4	4	ポールポジションII（ナムコ） Pole Position II (Namco)	5.30
5	3	忍者ハヤテ（タイトー） Ninja Hayate (Taito)	5.25
❻	10	ウルトラクイズ（タイトー） Ultla Quiz (Taito)	5.00
❼	8	サンダーストーム（データイースト） Thunder Storm (Data East)	4.88
8	6	ＧＰワールド（セガ社） GP World (Sega)	4.80
❾	15	スターウォーズ（アタリ） Star Wars (Atari)	4.00
10	9	スーパーパンチアウト（任天堂） Super Punch-Out (Nintendo)	3.82
⓫	13	ポールポジション（ナムコ） Pole Position (Namco)	3.50
⓫	17	モナコグランプリ（セガ社） Monaco G.P. (Sega)	3.50
13	12	バギーチャレンジ（タイトー） Buggy Challenge (Taito)	3.25
14	11	バッドランズ（コナミ） Badlands (Konami)	3.13
⓯	19	頭の体操（ユニエンター） Atama No Taisou (Unienter)	2.75

■フリッパー (FLIPPERS)

今回	前回	機種名（メーカー名） MODEL (MANUFACTURER)	評価 (RATING)
❶	—	スペースシャトル（ウィリアムズ） Space Shuttle (Williams)	7.17
2	1	ロボット（ザッカリア） Robot (Zaccaria)	6.00
3	2	ファイアーパワーII（ウィリアムズ） Fire Power II (Williams)	4.50
❹	5	ローヤルフラッシュＤＸ（ゴットリーブ） Royal Flash DX (Gottlieb)	4.00
4	3	ホーンテッドハウス（ゴットリーブ） Haunted House (Gottlieb)	4.00

調査ご協力店（順不同）

ルナパーク（東京・新宿）、ロサ・ゲームランド（東京・池袋）、ドリームイン河原町（京都・四条河原町）、タイトースペシャル（大阪・梅田）＝㈱タイトー；　Ｊ＆Ｂ（東京・神田）、ＵＦＯ(東京・鶯谷)、セガセンター・ニュー光（大阪・心斎橋）、モンテカルロ立命（京都・北区）＝㈱セガ・エンタープライゼス；　ゲームスペース・ミライヤ（東京・蒲田）、プレイシティキャロット新宿店（東京・新宿）、ビッグキャロット新橋店（東京・新橋）、なんばシティビッグキャロット（大阪・難波）＝㈱ナムコ；　ゲームスポット・チェスター（大阪・梅田）、アメニティパーク・リノ千日前店（大阪・千日前）、アメニティパーク・リノ梅田店（大阪・梅田）＝㈱アポロ；　カーニバルプラザ（東京・新宿）＝㈱エスコ貿易；　ワールドゲーム・ミヤコ（東京・新宿）＝㈱東京キャビオート；　ゲームプラザ・シルビア（東京・新宿）＝㈱東京マルサン；　名鉄レジャック（名古屋・駅前）＝㈱水野商会；　ビデオイン・キャッスル(小倉・駅前）＝㈲太平会館；　ビデオイン・マツヤ（京都・今出川）＝㈱岡田商会；　玉造ゲームセンター（大阪・玉造）＝峯興業㈲；　ボウルタカハシ・ゲームセンター（大阪・阿倍野）＝㈱大阪サービスゲームス。

新風営法でゲームセンターはどう変るか？　「新風営法入門講座」⑩

店舗と区画された施設

八号営業はゲーム機設置の場所も要素に

問　「八号営業に係る遊技設備」は今後も論議されるでしょうが、この問題はいったん置きまして、次に「八号営業」で問題となる箇所はどこでしょうか。

答　新法の条文でいくと「（八号営業に係る遊技設備）を備える店舗その他これに類する区画された施設（……を除く）において当該遊技設備により客に遊技をさせる営業（……を除く）」とあり、「八号営業に係る遊技設備」の設置される場所が問題となってきます。

問　つまり「店舗その他これに類する区画された施設」のことですね。でも、これでいくと「店舗その他これに類する区画された施設」以外ではどこに「当該遊技設備」が置かれていても、「八号営業」にはならないとは考えられませんか。

問　そのとおりです。法律はその意味でも厳密に解釈されなければなりません。店舗でも区画された施設でもない場所で「八号営業に係わる遊技設備」により客に遊技をさせる営業をしても「八号営業」にはなりません。

答　具体的に例えばですよ、何らかの店先でそこが区画もされていない駄菓子屋さんの軒先などで、スロットマシンなどの遊技設備を置いて客に遊技をさせる営業をしても、「八号営業」とはならないわけですね。

答　そういうことです。ですが、全国各地には青少年育成条例というものがあり、スロットマシンなどいわゆるギャンブル機（有害遊技機、特定遊技機などと表現されています）を置いて、年少者に遊技をさせることを禁止しているところがあるので、注意して下さいね。それらの条例では、場所のいかんを問わず条例で禁止していますので、それに違反する行為は違法行為になりますから。

また屋外で屋内用の甲種電気用品を使用する場合はどうかという疑問も残りますし、道端で営業する場合は道路交通法による露店営業設置許可の問題もありますし、そう簡単ではありませんね。

問　話を戻して「店舗……」を詳しく見てみましょう。まず「店舗」と「その他これに類する区画された施設」というのは別だ、ということでこれについては昨年の暮にかけてひと騒動あったのですが、それはさておき、「店舗」などの意味についてはどうでしょう。

答　「店舗」の定義が他の法律になかったのでしょうか。警察庁は「社会通念上一つの営業の単位と言い得る程度に外形的に独立した施設」だと解釈を下し、さらにその解釈を細かく示しましたが、法律的にはこれらはひとつの行政庁の見解にすぎません。従って、裁判所の判決を調べるか、それがなければそういう判決を待つ以外ないでしよう。それほど厄介なものなのです。

でも当面は警察庁による解釈に従って考えていくのが得策でしょう。その意味で、こういうものは店舗に該当するのかどうか、という疑義はすべて警察庁が受けてくれることになります。なお当然ながら、普通に考えて（これを社会通念上と言います）お店という概念に当たるものは、一応どんな形態でも「店舗」に当たることになります。

問　「その他これに類似する区画された施設」についてはどうでしょう。これに伴なうカッコ内の除外規定との関連を含めて示して下さい。

答　これは他の法律にないもので、「店舗」とともに考える必要がありますが、警察庁の解釈では「店舗に当らない区画された施設で営業行為の行なわれるもの」となりいよいよ複雑です。例示から考えると、大店法でいう大規模小売店舗（いわゆるＳＣのほか駅ビルなども含まれます）で、一つのお店になっておれば「店舗」に当たりますが、そうでなく売店などに付随していて区画されておれば「区画された施設」となるわけです。このあたりはいろいろ疑問が残っていますが、当面そう考えられます。

カッコ内の除外規定は施行令第一条で①旅館、ホテル、②大規模小売店舗、③有料遊園地の中にあって「当該施設の外部から容易に見通すことができるもの」に限り、「八号営業」から除外されると定められました。従って、「店舗」の場合は、施行令の除外対象にもならない、という考えです。

問　デパートの屋上、ＳＣ内のゲームコーナー、ボウリング場、バッティングセンター、自販機コーナー、その他観光施設やフェリーや、果ては山小屋や公衆浴場、映画館までどこでもゲーム機は進出しました。それぞれが明るく、社会的にも有意義な営業だと思われるのですが、どうしてこれらが、「店舗その他これに類似する区画された施設」に該当するか、該当しても施行令で除外されるかどうか——など窮屈な判断を受けねばならないのでしょうか。新法第一条でいう目的はどのようにこれらのロケーションと関係があるのでしょうか、私にはさっぱりわからなくなりそうです。

答　でもね、「八号営業に係る遊技設備」がそこに置かれているということが前提になっているのを忘れてはいけません。デパートの屋上にスロットマシンが並んでいる様子を想定して下さい。賭博の未然防止の観点からすれば、新法による「八号営業」との解釈は当然と思いませんか。

新風営法を勉強する会

英文版業界ニュース

Overseas Readers Column

Few Arcade Videos

Gaming Devices Dominate NAO Amusement Expo '85

On February 13–14, under the sponsorship of Nihon Amusement-Machine Operators Association (NAO), "NAO Amusement Expo '85" was held, joined by 40 companies. Affected by the enactment of "New Fuei Act", gaming devices, which have so far been prohibited to exhibit at the previous NAO Shows, occupied almost the venue. A considerable number of visitors seem to have been perplexed at the actualities of the current trade show which should be intended for "sound" operators aimed at "sound amusement". In enacting the "New Fuei Act" on February 14, the National Police Agency (NPA) adhered to the opinion that "Any games can be used for gaming". NAO follows this opinion, and decided to treat gaming devices and amusement games equally – not dividing them according to an international point of view. According to another view, NPA decided to adopt the opinion according to NAO's view. There is enough room to discuss which was the first – egg or hen? (The editor of *Game Machine* is quite unpleasant about this kind of matter!). What is obvious is that NAO is asserting its adherence to the equal treatment of both gaming devices and amusement games. That is, NAO has not any firm belief about the division. Well. If the "New Fuei Act" was enacted through the negotiations between NAO and NPA, the NAO people should be placed under strict police licensing control – this was voiced here and there at the NAO Show.

Despite the overwhelming exclusive display of gaming devices, a number of latest arcade videos were also unveiled. Under desperate circumstances, these exhibits represented a bright aspect of the trade. One such example is Taito's video "Wyvern F-O". It features a double-screen system in which a half-mirror is sandwiched by CRTs above and below. For players, the two screens are doubly seen, thus giving a new-type three-dimensional effect. In "Wyvern F-O", planes of the player fly over the enermy's area, encountering the attacks from the ground and the air. A missile launched from the ground shifts from the lower screen to the upper screen, while a missile launched from above also shifts from the upper screen to the lower screen. These two screen plays are completely interlocked by a computer. Takeshi Mori, Product Department manager of Taito Corporation, was pleased to comment, "The prototype was completed just before the show. We may improve it more".

Konami Industry unveiled its video game "Twin Bee" of "Bubble System" for the first time in Japan. Taito and Konami are among the few companies which did not exhibit gaming devices. At the current NAO show, several new arcade videos were unveiled. They include SNK's "HAL 21" and "Campus Croquis", Jaleco's "Field Combat", and Alpha's "Splendor Blast". However, surrounded by many gaming devices as well as video slots, these were exhibited quietly.

In the field of kiddie rides, apart from Hope and Asahi Engineering which displayed their line-ups, there were no conspicuous exhibits, as if the light went out. It is likely that the NAO Show, which has so far been dubbed the "Kiddie Ride Show", has completely changed its nature.

At the general meeting held February 13, NAO passed a resolution to "disband NAO". The exact date of dissolution, however, is said to be decided by the board of directors. According to those concerned, NAO will disband itself in May through June. Without confirming their merits and demerits after numerous achievements and failures, NAO is going to "dissolve". Many Japanese operators seem to be more than amazed at it.

"Science Expo" From Mar. 17 With Many Amusement Rides

In Japan, "Tsukuba Expo '85" will be held from March 17 till September 16. Dubbed "Science Expo", this expo

uses about 100 ha of extensive place in Tsukuba Academic City, Ibaragi Prefecture. Recently, concrete scope of amusement park was fixed, and announced in January. According to it, the expo site includes an amusement park, "Hoshimaru Land" (about 18,000 m^2) jointly managed by a group of different enterprises, and amusement facilities within the respective pavilions. There, Japan's major amusement machines and/or amusement park facilities manufacturers join.

According to the announcement, "Hoshimaru Land" is managed by a conglomerate of four companies – Namco Ltd. of Tokyo, Sanyo Kogyo Co., Ltd. of Osaka, Omoigawa Kanko Ltd. of Ibaragi, and Joyoshinbun Ltd. of Ibaragi. Namco will cooperate with Tasuko Co., Ltd. of Tokyo, and Kanto Goraku Kogyo Co., Ltd. of Tokyo. Omoigawa Kanko will be helped by Meisho Co., Ltd. of Osaka, Sansei Yusoki Co., Ltd. of Osaka, Togo Japan, Inc. of Tokyo, and Asahi Engineering Co., Ltd. of Osaka. Thus, "Hoshimaru Land" will be covered over with Togo's "Standing Coaster" and many other amusement park facilities. Senyo's "Super Tornado" will be unveiled for the first time in the world. In addition to these amusement park facilities, arcade games and kiddie rides will also be installed, and run by exhibitors themselves.

In addition to "Hoshimaru Land", there are several other amusement park facilities. Senyo is constructing the world's largest giant wheel, "Techno Cosmos", the wheel "Telecom Ring" that turns slantingly, and the monorail "Vista Liner". Meisho is constructing the gondla lift "Sky Ride". These facilities will be completed by March 16.

Adopting "Dwellings and Surroundings – Science and Technology for Man at Home" as its main theme, "Tsukuba Expo '85" – "The International Exposition, Tsukuba, Japan 1985" intends to exhibit a wide spectrum of items by giving full play to the latest science and technology. As with every expo, however, the coming expo may, according to cool observers, end in a competition for screen techniques. From this point of view, it is doubtful whether the expo will be successful. The organizers expect that, sponsored by the government, it will be visited by some 20 million people, but we must observe actual developments to confirm that expectations.

Tehkan Strengthens Its US Subsidiary Tehkan USA Inc.,

Tehkan Ltd. of Tokyo announced that its American subsidiary will be reorganized and strengthened, and its operations will start afresh from March 1.

Though Tehkan had US Tehkan Inc. in Los Angeles, it has not been active. Recently, since Tehkan had a prospect of supplying its products to the North American market, it decided to reorganize its American subsidiary. According to the announcement, US Tehkan Inc. will be renamed Tehkan USA Inc., and its office will also be moved. In preparation for this, Kenichi Nakata, director of Tehkan, has reportedly been staying in the U.S. as vice-president of the subsidiary, since this January. Tehkan USA Inc., 1801 S. Ardia Maru Lane, Carson, CA 90746 phone (213) 329-5800.

President Of Bally Japan Corp. To Roger Keesee

As of February 18, The president of Bally Japan Corp. of Tokyo changed from Mahlon J. Barber to Roger N. Keesee. This firm is one of the subsidiaries of Bally Mfg. Corp. of Chicago, U.S.A.

Mahlon Barber had also served as the president of Gaming Equipment divison of Bally Mfg., but retired on December 20, last year. Since October 1983, Roger Keesee has been executive vice president of Bally Mfg. Recently, he has also been appointed president of Bally Japan.

Editor: *Masumi Akagi*
Amusement Press, Inc.
9-16, Kamiyamacho, Kita-ku, Osaka, 530 Japan

スーパー・ドンキホーテ
SUPER
DON QUIX-OTE
TM
あのドンキホーテが織りなす、
愛と冒険のファンタジー!
●フロントオープンでメンテナンス作業は非常に楽です。
●ステレオで音響効果の迫力満点。
●アジャスター付き。
未来対応!ユニバーサル システム1(ワン)。
☆ユニバーサル システムⅠは年に2～3本の作品を提供します。
ユニバーサル システムⅠ仕様 汎用キット
「スーパー・ドンキホーテ」も発売しています。
仕様 ／ 1800(H) x 640(W) x 800(D) m/m AC100V 50/60Hz 180W (20″)
〒 95-2835